

平成31年村上市議会第1回定例会会議録（第2号）

○議事日程 第2号

平成31年2月20日（水曜日） 午前10時開議

第 1 会議録署名議員の指名

第 2 平成31年度村上市施政方針及び議第4号から議第14号までに対する代表質問
議第4号から議第14号まで委員会付託

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

○出席議員（22名）

1番	小 杉 武 仁 君	2番	河 村 幸 雄 君
3番	本 間 善 和 君	4番	鈴 木 好 彦 君
5番	稲 葉 久 美 子 君	6番	渡 辺 昌 君
7番	尾 形 修 平 君	9番	鈴 木 い せ 子 君
11番	川 村 敏 晴 君	12番	小 杉 和 也 君
15番	平 山 耕 君	16番	川 崎 健 二 君
17番	木 村 貞 雄 君	18番	小 田 信 人 君
19番	長 谷 川 孝 君	20番	小 林 重 平 君
21番	佐 藤 重 陽 君	22番	大 滝 国 吉 君
23番	大 滝 久 志 君	24番	山 田 勉 君
25番	板 垣 一 徳 君	26番	三 田 敏 秋 君

○欠席議員（1名）

14番 竹 内 喜 代 嗣 君

○地方自治法第121条の規定により出席した者

市 長	高 橋 邦 芳 君
副 市 長	忠 聡 君
教 育 長	遠 藤 友 春 君
総 務 課 長	佐 藤 憲 昭 君
財 政 課 長	田 邊 覚 君

政策推進課長	東海林	豊君
自治振興課長	大滝	寿君
税務課長	建部昌	文君
市民課長	尾方貞	一君
環境課長	中村豊	昭君
保健医療課長	信田和	子君
介護高齢課長	小田正	浩君
福祉課長	山田和	浩君
農林水産課長	大滝敏	文君
地域経済 振興課長	川崎光	一君
観光課長	竹内和	広君
建設課長	伊与部善	久君
都市計画課長	山田知	行君
下水道課長	早川明	男君
水道局長	川村甚	一君
会計管理者	松田	明君
農業委員会 事務局長	鈴木美	宝君
選管・監査 事務局長	佐藤直	人君
消防長	長研	一君
学校教育課長	木村正	夫君
生涯学習課長	板垣敏	幸君
荒川支所長	小川	剛君
神林支所長	石田秀	一君
朝日支所長	岩沢深	雪君
山北支所長	斎藤一	浩君

○事務局職員出席者

事務局長	小林政	一
事務局次長	大西恵	子
係長	鈴木木	涉

午前10時00分 開 議

○議長（三田敏秋君） ただいまの出席議員数は22名です。欠席の届け出のある者1名です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

本日の会議は、お手元に配付の議事日程により議事を進めてまいりますので、よろしくご協力をお願いします。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（三田敏秋君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則の規定によって、6番、渡辺昌君、20番、小林重平君を指名します。ご了承願います。

日程第2 平成31年度村上市施政方針及び議第4号から議第14号までに対する代表質問

議第4号から議第14号まで委員会付託

○議長（三田敏秋君） 日程第2、これより平成31年度村上市施政方針及び議第4号から議第14号までの11議案に対する代表質問を行います。

代表質問は、配付してあります代表質問通告者一覧表の順に行います。

最初に、鷲ヶ巣会の代表質問を許します。

25番、板垣一徳君。（拍手）

○25番（板垣一徳君） 皆さん、おはようございます。鷲ヶ巣会の会派長を仰せつかっております板垣でございます。きょうは、鷲ヶ巣会を代表して54分間時間を頂戴いたしました。質問をさせていただきます。よろしくお願いをいたします。

まず、質問する前に、毎日本会議があれば私どもに配付になるわけではありますが、この答弁者、30名の方が私どもとおつき合いをさせていただいているわけではありますが、その皆さんがいわゆるこの財政の厳しい折に、平成31年度の一般会計あるいは特別会計合わせて542億7,000万円という広大な予算の作成にご尽力をいただいた課長さん、支所長さん、そして局長さん、三役の皆さんの労に敬意と感謝をまず表しておきたいと思えます。

そこで、昨年を振り返ってみますと、昨年は日本の国は災害の年と言われても過言でないと思っております。日本の国は、諸外国から見ますといわゆる災害の国日本というまで言われるくらい災害が多い国だと言われております。私は、昨年の災害を振り返ってみまして、西日本、いわゆる豪雨災害あるいは台風の災害、たびたびの災害、そして北海道の大地震、このことを国民は災害の恐ろしさ、災害が起きたら逃げる、命を粗末にしないという教訓を私は国民一人一人が得た年でもあったと思うわけです。そういう中で、2月の14だと思えますが、新潟県知事、花角知事がいわゆる平成31年度の新潟県の予算を発表されました。この中で、いわゆる2つの大きな政策を取り入れた

と、こういうことです。1つには人口減少問題、もう一つは減災・防災、これを新潟県としてしっかり取り入れていきたいと、こういう。そのためには、いわゆる財政調整基金を134億円基金は取り崩しているのです。しかし、調整基金を取り崩しても減災・防災は必要性があると知事は認識したと私は思っているのです。私は、極めてこの政策に感動をし、尊敬をしている一人であります。

そこで、これを村上市にもいつ来るかわからないのです、災害は。しかし、村上市には幸いここ数十年大きな災害が来ない。ありがたいことです。市長の精進がいいのか、私ども議会が精進がいいのかは別としましても、来ない。しかし、災害はいつやって来るかわかりません。

私は、そこで市長に質問です、市長。私どもこの村上市、いわゆる海岸線を50キロ、そして1級河川、2級河川、大きな川を持っています。そして、さらには広大な面積、1,174平方キロ、これは全国でも市町村で13番目に面積が広いと言われていています。神奈川県に匹敵するとも言われています。佐渡の1.4倍あるとも言われています。この土地、河川、いわゆる津波を守るには、一気にその体制づくりに入るということは極めて私は財政上難しいと考えます。そういう中で市長に1点お聞きしますが、やっぱり年次的に計画を立てて、防災・減災、いわゆる災害に備える、そういう政策を私は取り入れていくべきであるというふうに考えますが、市長の考えをそこで1点お聞きします。

もう一点、万が一災害が起きたとき、必ずお金が必要になります。そこで、この件については、財政課長、今財政調整基金が幾つになっているか私はわかりません。今の予算書を見ても見つけないのです。それで、私のこれは誤りかどうかはわかりませんが、その市町村ごとに財政調整基金はこれだけの金額は財政調整基金として必要なのだよという一つの基準があるのではないかと思うのです。その観点から、やはり財政を一気に基金を積み上げるということは、これは無理です。節約をしながら財政調整基金を私は15億円以上の基金を積み立てておくべきであろうと、こう思うわけですが、財政課長としてのお考えをお聞きをいたします。

まず、市長をお願いします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） おはようございます。冒頭、まず今回の平成31年度予算編成に当たって、我々職員に対しまして過分なお言葉いただきましたことに感謝を申し上げたいというふうに思っております。昨年7月からスタートをさせました行財政改革プロジェクト、これは若手中心にしながらそれをしっかり一つ一つ積み上げさせていただきました。その結果だということで、本当に私自身もありがたいなというふうに思っておりますけれども、こういった職員の力がしっかりとこれから持続可能な村上市の行財政運営のベースになっているということをお知らせすることができたのではないかなというふうに思っております。

そこで、減災・防災の部分で県知事が1丁目1番地ということでお取り組みになっているお話をいただきました。私もたびたびこれまで花角知事とはお会いをさせていただいて、事あるごとにそういうようなお話をいただいております。村上市におきましても、当市間同士でしっかりと支え合

うということで、昨年の災害につきましては村上市もこれは都道府県の仕組みでありますけれども、チーム新潟として数々の災害現場に応援に行かせていただきました。その中で、やはり職員からの復命を聞きますと、非常にやはりあぁいったことに備えておいて、やはりそれを減災側で対応できるということが重要だという復命もいっぱい受けています。その後職員もその経験を職員全体で、全庁で共有しようというような取り組みもさせていただきました。そういったことを踏まえながら、常に私も油断するなというお話を市民の皆様とお話をするときにも申し上げさせていただいておりますし、また庁内でもそういう話をさせていただいております。議員ご披露いただきましたとおり、我が村上市は非常に広大な面積とそこに点在をする公共施設、インフラがあります。これが寸断されることによって直ちに市民の生活が困窮をするというふうな状況になりますので、そのところはしっかりと計画的に取り組みを進めなければならない。ただ、現実問題といたしまして、例えば海岸保全の部分につきましては、北陸地方整備局管内全体でもなかなか予算づけに至っていないというのが現実であります。ですから、我々はその関連する自治体と連携をしながら、県とも連携をしながら、国とも連携をしながらそれを一刻も早く是正していくようにということで、財政的な面からの対応もさせていただいております。そんなところを踏まえて、市が抱えます広範な行政事務の中でやはり市民の安全・安心を守っていくのだということで、これからもしっかりと計画的にまずはインフラ部分、それと市民の皆さんの意識づけ、これを両建てでやっていくということで、防災自主会も中心にしながら、自主防災会も中心にしながら、やはりいろんな場面でそれを進めていくということが大切だと思いますので、これまでの政策をまたさらに拡充をしながら先に進めるということに取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（田邊 覚君） 災害が発生した場合、その対応のための財源となりますと、やはり緊急でございますので、基金を取り崩すような形になりまして、議員おっしゃるように、財政調整基金がそのかなめとなるものでございます。その災害の状態によっては、国の支援が得られる財源もございますけれども、基本的にはやはり財政調整基金を蓄えておく必要があると思います。これを充てることになると考えております。したがって、やはりおっしゃるとおり10億円以上、できれば20億円以内ぐらい、20億円程度は財政調整基金があつて、主に災害対応とか緊急の場合に充てるように積み立てをしていく必要があると考えております。現実的には、大きな災害はないとは言いながら、去年は豪雪のため、これは思わぬ豪雪でしたけれども、こちらであるとか、豪雨のために実際財政調整基金思わぬ取り崩しをしてございますので、今後それらに備えてあらかじめそういう対応をしていきたいというふうには考えてございます。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 市長も前向きに答弁大変ありがとうございました。ひとつ市民の生命・財産は何よりも大切なわけですから、取り組んでいただきたいと。これは、しっかりとお願いをしてお

きたいと思います。

また、財政課長、その気持ちを忘れないようにしっかり捉まえて、お金は入ってくる量と出る量と出る金を抑えなければ備蓄はできないのですから、基本でしょう。ですから、財政課長が財布持ちですから、しっかりその辺の計画を持って、そして入る金、出る金をバランスを調整して基金の積み上げに努力していただきたいとご要望申し上げます。

次に、ふるさと応援寄附金について、政策推進課長、今これ見てびっくりしました、実は、このパンフレット見て。村上市にこんなにたくさん特産品があるのかなと、あるいは高価なものがあるのだなと。この寄附金の返納品に1万円から100万円です。これだけ幅広くやっておる。極めてですから、金がこれはあれですけども、去年の4月からことしの1月まで3億800万円です。こんなお金をいただけるということは、村上市にとって大変ありがたいこと。そして、特産品が全国に宣伝になる。これは、極めていい事業なのです。

そこで課長、いろいろ12品目のあれがありますが、これを今このカタログを見ますと、酒は酒、堆朱は堆朱、肉は肉、魚は魚というメニューになっていますよね。私は、ここを、私の考えです。もらう人からすれば、このおいしいメ張鶴、大洋盛をもらって鮭と詰め合わせになれば、一目瞭然に友達と飲んだり食ったりできるわけです。そういう組み合わせを考えたことがあるのか、これから考えようと思いませんか、課長。

○議長（三田敏秋君） 観光課長。

○観光課長（竹内和広君） 発注のほうになりますので、私のほうからご答弁させていただきます。

議員ご指摘のとおり、村上の品物大変ご好評で大変多くの寄附をいただいています。制度創設時点からもうコラボレーションといいますか、組み合わせについては何回か検討させていただきましたし、また審議もしたことがございました。問題としましては、どちらが取りまとめるかと。その取りまとめる主体はどこになるのかというのが課題で今までも現在も実現には至っておりません。ただ、今板垣議員おっしゃいましたように、お酒につきましては物産会に加盟しているのは酒蔵さんが加盟しております。ですので、2つしかありませんので、大洋さんとメ張さんが酒蔵でそれぞれ登録しておりました。これ何とか一緒に欲しいというニーズがございました。それに対しまして、酒小売組合という方の組合がございまして、あの方々は、物産会の会員ではございませんが、小売組合としてそのニーズに応えたいというものがございまして、小売組合であればそれぞれの酒蔵から仕入れたものをコラボレーションに出して好評をいただいているという事例もございまして、先ほど言いました検討したことはございますが、課題としては受ける場合がちょっと課題であったということでございますので、今後も非常にいいご提案ですので、研究材料かなというふうには認識しております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 課長、たくさんの質問を持っているのであれですけども、これ研究するこ

とによって、私はこの寄附金を村上市にしてくれる人は2色あると思うのです。村上市という市に対して、本当に支援をしたいという考えの人、あるいはこのパンフレットにほれて、いや、こんな素晴らしいものがあれば私は財産として残しておきたいあるいは食べてみたい、こういう2つの考えがあるのではないかと私は推測するのです。ですから、これぜひ課長相談して研究するというのを約束していただければ、それはそれで結構ですので、ひとつお約束できるのでしょうか。ただ一言でよろしゅうございます。

○議長（三田敏秋君） 観光課長。

○観光課長（竹内和広君） 受け皿のお声がけはさせていただきたいというふうに思っています。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 次に、医学生の修学資金制度は保健医療課長ですか。課長さんご苦労してこれつくって、私は日本の国の先端条例だと思っているのです。しかし、これ見ますと、最近の新聞です。見ましたか。36年医師不足5,000人。本県1,534人。またひどいものあるのです、もっとも。毎日のように新聞に載っているのです、今。何か医者が日本からいなくなるような状況です、この新聞を見ますと。

そこで課長にお聞きしますが、昨年からこれ実績してきたわけでありましたが、今現在の希望者、要望者の状況はどうですか。

○議長（三田敏秋君） 保健医療課長。

○保健医療課長（信田和子君） 現在2月末まで募集期間でございますが、今のところ2名の募集がございました。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） それは、昨年でなくてことしですか。

○議長（三田敏秋君） 保健医療課長。

○保健医療課長（信田和子君） 今年度の募集で31年度の修学生になります。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） それ課長、ぜひ大事にして、私は医者を育てないと。今村上総合病院が起工式やりました。幾ら立派な病院ができて先生がいなくては話にならぬ。これぜひ、課長だけの力では進みませんが、これは部内でもっとこの今の条例もこれでいいのかどうか含めてもっとやわらかくしてよければやわらかくして医者の確保をしないと大変な状況になるのではないかと私は心配しますので、部内でよく相談してみてください。

そこで市長、施政方針のあれを見ますと、何か偉くなったのだね。全国市長会の地域医療確保対策会議委員だそうでありますね。これをちょっと内容、余り長くしないで簡単に説明してくれますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 現在全国市長会の中に特別会議という形で地域医療対策会議というものをこさえています。これは、現在32名の委員で構成しています。812ありますから、その中から各県代表に近い状態で来ていて、特に委員長が秩父市の久喜市長さんで、立谷全国市長会会長も毎回出ていらっしゃる。その中で、今議論になっております専門医制度でありますとか新聞に出ておりますけれども、メディアにも出ました2036年度までにとということで厚生労働省でロードマップ示していますけれども、その辺のあたりの突っ込んだコアな部分を議論させていただいております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 市長、これ深刻な問題だと思うのです、この新聞を見る限りでは。世の中は、国がそういう制度を施策を打ち出せば、また解消もします。県も必ずやるでしょう。市もこうやって村上市はいち早くこういう条例を制度化したわけですから、全国にもそういう制度化を広げてもらいたい、村上市みたいに。全国に医者が多くならなければ、私どもこういう過疎地に来る医者がだんだん、だんだん不足になることは間違いないわけでありますから、ぜひその辺を32人という八百何十市の市長さんから選ばれた委員でありますから、32人の一人であります。ぜひ発言をして全国に村上市の実情なんかを自慢していただきたい。そして、広めていただきたい。これひとつお願いしたいと思います。

次に、商工関係について観光課長また再度お願いしますが、ことしの予算を見ますと、毎年続いてきたプレミアム商品券載っていないですね。これは、課長、何かこれからいろいろ施策の中で浮き出るのか、それとも全くもう商工会からの要望もないし、この辺で打ち切ったのか、その辺ちょっと教えてください。

○議長（三田敏秋君） 地域経済振興課長。

○地域経済振興課長（川崎光一君） プレミアム商品券につきましては、10年の長きにわたりまして事業が継続されておりました、さまざま課題が出ております。それで、それらを商工関係皆さんと内容を練り直しましてもう一度考え直すということで今回新年度予算には計上しておりません。

それと、消費税増税に絡みまして、国のほうで今回子育て世帯と低所得者向けのプレミアム商品券、こちらのほうを発行を計画されております。そういったことも関係しておりました、今後状況を見ながら対応していきたいと考えております。

以上です。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 10月から消費税上がるのは、私どももよく知っています。これは、大きな反動あるのでしょうか。そのために国は、プレミアム商品券を発行して、いわゆる消費者に恩恵を与えようと、いわゆる大きなショックがないようにランディングしようとしているわけです。そこで、きょうのこの皆さんの施政方針を見ますと、10月の消費税も鑑みながら、さらに今課長が言うように検討してまいりたいと、こういう文面だと思うのです。

そこで、市長にお聞きしますが、市長。これ私は、昨年までですと、大体おとしだと、去年のまだ決算が出ていないらしいのです、ちょっと聞いたら。約2億円のプレミアム商品券発行しているのです。そうすると、市の負担が2,000万円です、10%ですから。2億円の金が今課長の話だといろいろこれからそういうことで研究するのだというような、打ち合わせもするのだということではありますが、私は消費税が上がる年、しかもこの2億円という金がこの地域に消費者に恩恵があるということになると、これ相当経済的に村上市も違うのではないかと私思うのですが、市長の考えはどうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 市内における経済活動の中で、消費活動、これが停滞をしないようにさせるということは重要であります。前回の消費税増税の際に、一旦やはり駆け込みがあつて、その後増税後冷え込んだという現状がありました。ですから、国のほうでもそういうふうな形に腰折れにならないようにという形で今政策打っていますので、それと連動させるということはまず必要だなどというふうに思っております。

それと、今まで10年間やってきましたプレミアム商品券のこれまでの変遷をたどったときに、やはり当初の大型消費財産ですね、これは。その購入支援することによって地域経済にインパクトを与えていこうというふうな話から随分と変わってきて、消費生活、要するに生活側にシフトしているものですから、そういうのであれば、実態見ると、どこで換金されているかというものを見ると明らかになるのです。そういうことを先日市内の商工関係団体の皆さんと協議をさせていただきながら、その実態を踏まえた上でよりの確な、より有効なものにしていこうということで議論させていただきました。今の状況、データお示しする時間ありませんけれども、かなり限定的であります。これでは市域全体の経済活動を支援するという形にはなっていないなという判断を現時点ではしております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 商工会も今極めて同じ村上市の中でも山北地域は商業関係が極めて大変な時期に入っています。私ども旧黒川まで言っても皆さんは認識がないと思いますが、山北町合併する前に5つの村がありました。その私の集落、黒川村地域では今酒屋さん1軒だし、たばこ屋さん1軒だし、そして仕出屋さんたった1軒しかないのです。こういう実情に合併10年の間にこの時代の精査もあるでしょう。しかし、大型店舗にいわゆる巻かれた状況もあると思いますし、いろいろな状況も絡んでそういう状況に陥っているということは現実なのです。ですから、市長、これ商工会は市長部局に、いわゆる行政の補助団体です。5つの商工で言うと相当の額出している。その補助団体が弱くなれば、村上市の地域経済なんて成り立たないと私思うのです。ぜひこれまだ消費税までは時間ありますので、よくこの村上の経済を状況を把握しながらしっかりとこれは受けとめていただきたいと私は切にこれ希望するのですが、市長もう一度答弁お願いします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） まさにその部分は共有をさせていただいているなというふうに思っております。だからこそ商工会議所、4商工会の皆さん方と議論させていただきました。その中で、上半期の景況状況については、我々と現場と共有をしていきたいと思いますという形で協議をさせていただきましたので、少しその辺についてはこれまで以上に丁寧にやっていって、その都度、経済対策ですから、必要なときに打つという形になると思いますので、そこは視野に入っておりますので、まず申し上げておきたいというふうに思っております。いずれにしましても、市の商工業者がしっかりと持続可能であることが必要でありますので、前にも述べましたとおり、中小企業、特に中小企業の運営側を支援するための債務保証部分をきめ細やかにしていこうという形で制度も少しいじりますので、そういう形で今あるものについては維持をし、さらに産業支援、要するに起業・創業につなげていくというその両面作戦で取り組んでいきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） ひとつよろしくお願いをします。

次に、森林環境税について、市長が2月の16日に私ども村上市の予算を発表しました。この森林環境税が3,000万円のお金が入ってきてこの意向調査をする、森林管理システムの構築に1,275万円盛りましたと、こういうような説明も市長の口から出ているのです。間違いありませんよね。

そこで、課長、農林水産課長、私ども、今国会審議中ではありますが、2月の8日の日に政府与党から今の国会に私どものこの森林環境税法が提案をされています。私あす上京するのですが、今のところは間違いなくこの法案は可決すると言われていています。そうなりますと、この金にはきちっとした林業政策でなければ使うことができないひもづけでありますから、そこでまず市長にお伺いします。この前2月7日の日に新潟市の秋葉区文化会館でアジア航測株式会社、大西満信氏という方が講演をされました。そこで極めていいことをあの人が言ったのです。私は、そのとき質問させてもらったのですが、私どものこの村上市には森林簿はあると思うのです。課長あるでしょう、森林簿ありますでしょう。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大滝敏文君） 森林簿ございます。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 森林簿があるのです、市長。それで、森林台帳は、本来3年前からいわゆる政府はこれを林野庁も森林台帳をつくりなさいと、こういうことで推進してきましたが、なかなかここに至っていないというのが私は日本全体の市町村ではなかろうかと思っています。なかなか時間と金がかかるのです、これつくるには。

そこで、この方が、大西満信氏という方がいわゆるレーザーを使った測量、データをとると。いわば、私から言わせれば、航空写真といいますか、飛行写真といいますか、そういう写真をもとに

いわゆる面積、境界、立木数、これがおおよそつかめるというお話をしましたよね。そこで、これは1平方メートル当たり、1町歩3,500円です。それで、5万ヘクタールになりますと2億円行くかと、こういう説明でした。そこで、私はこれは市長に頑張ってもらいたいのです。というのは、新潟県30の市町村がこれ全部必要なのです。そこで、やっぱりこの仕事は県にやっていただいて県も負担していただく。市はもちろん、県にもやっておればこれから効果ありますから、使い道たくさんありますから。そして、私ども村上市も関係ある30の市町村は、そこへ負担していくということになりますと、新潟県全部の面積をこのレーザー方式で図面ができるのです。そうすると、相当割が安くできると私はこんなように講演聞いていました。

そこで、市長に頑張ってもらいたいというのは、先ほども花角知事さんと仲間だという話もありました。ぜひこの知事もかわって市長と馬が合うらしいですから、ぜひ先頭を切って新潟県でこの写真と図面をつくるようなそういうところに市長みずからが努力する考えはありませんか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） まさに同様の感覚で当日フォーラムの際にも少し県の当局担当者の皆さんとその話させていただきました。そうしましたら、先生のほうからは、長野県はたしか県で措置をしたのだけれども、完成形にはなっていないというお話でしたけれども、さらには新潟県今15万立方メートル程度の素材生産を25万まで上げていこうというような計画をしています。そのネックになっているのがやっぱり森林の境界の設定、それに基づく森林管理計画がなかなか進まないということなのだろうと思います。そういうことをトータルで今法整備されていきますので、加えてあの写真を森林面積だけでなく、県土全体にしたときに、当然森林持っていない自治体もありますので、そうしたときに、例えば森林管理だけでなく、県土の管理、要するにあるいは標高差、高低差、また状況が全部つくり上げられるわけでありますから、そういった意味で県にとってもメリットがあるだろうというような議論をさせてもらっていますので、今30市町村で連携をしてということまで私思い至っておりませんでしたので、少し考えさせてください、関係する皆さんと少し協議をさせていただいて県とも協議をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 市長トップになって、村上市は何といても森林が多い。新潟県ではトップになって恥ずかしいなどということはありませんので、ぜひ頑張ってくださいと、こう思います。

それで課長、ことしの予算を見ました。これ林業の全体の予算です。前年対比、今年度は2億6,176万円というお金でありまして、前年よりも364万円多いのです。しかし、そこに3,000万円という譲与税が入っているのです。私は、ここが課長さん勘違いしているのではないかなと心配しているのです。まず、この森林環境税を譲与するということは、従来予算に上乗せすると、あるいは減らさないというのが基本なのです。私も昨年暮れに林野庁の3人の方に、長官、林野庁の今長

官かわりましたけれども、私の行ったときには沖長官あるいは林野庁の渡辺部長さん、林政部長さんあるいは織田森林整備部長にお願いしたことは、この環境税がことしから導入されても林野庁予算を減らせばこれ意味なさないのです。国もそういう考えなのです。そこで、今国会中ではありますが、林野庁予算がではどうなのということで実は国会議員の先生に電話してお聞きしました。林野庁予算は減っていません。そうでないと、この森林環境税の大きな目的は、まず日本の、世界の地球環境、いわゆる環境を直そうということなのです。それと、おのおの国によっては水の涵養です。水資源を守ろうと、あるいは災害の防止をしようと、たくさんあるのです、この意味を。これから永遠につながろうとするこの環境税が。ですから、ここで減らしたのでは村上市笑われるのではないかと私は思うくらい極めて残念なのです。課長はそう思いませんか。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大滝敏文君） 今回の予算編成に当たりましては、トータルとしましては森林環境譲与税相当分3,000万円というふうなことで、議員おっしゃるとおり3,000万円ふえればよかったのでありますけれども、やはり事業一つ一つを必要な事業に係る経費、これらを十分精査した上で予算編成をした結果でございます、そういうことでご理解をいただきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 課長、補正もあることですし、やる気であれば幾らでもできる話ですし、またこれは1年で全部使う金でもございません。来年お金をかける事業があればそれなりにとっておいて使うということも可能なはずでありますので、幅広くやっていただきたいと、こう願っております。

次に、下水道についてお伺いをします。まず、下水道課長、今下水道処理施設あるいは管、いわゆる下水を運搬する管が耐用年数を超えているというような地域というか、そういうものはございませんか、今現在村上市内全般で。

○議長（三田敏秋君） 下水道課長。

○下水道課長（早川明男君） 下水道の管渠につきましては、耐用年数につきましては50年という耐用年数でございますので、市内全域で耐用年数を超えている地域はございません。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） もう一点、耐用年数は超えていないということは、私ども村上市では私ども旧山北町の中浜が一番早い私は下水道とっておりますが、それは超えていません。確かなのです。ところで、では地震、いわゆる震度6まで耐えられるこの施設、管というものは、あなた方調査したことがあるでしょう。今新聞で規制しているのでしょうか。そういうものは、村上で調査したことはありませんか。

○議長（三田敏秋君） 下水道課長。

○下水道課長（早川明男君） 耐震化についての調査というものは、直接はしておりませんが、管渠の整備に当たりますと、現在の耐震の施工というものは今までの市内の管渠ではございません。あと施設につきましても、中浜につきましても昭和58年でしょうか強化してございますが、市内全域の施設そのものにつきましても結構古いものでございますので、その中で今現在長寿命化を図っている中で順次調査を進めているという状況でございます。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 課長、下水は万が一地震が来て壊れる。これは、もう私ども私生活に関するのはもちろんです。管も含めてこれは私ども命の源なのです。ぜひこれを年ごとに計画を立ててもうそろそろ〔質問時間10分前の予告ブザーあり〕耐用年数になる時期なのです。これを早く長期計画を立てないととても金そこだけに費やすわけにはいきませんので、これからもうそろそろです、もうそろそろ。もう10年以内には来ますよ。

そこで課長、マンホールのふたの標準耐用年数があるということを知っていましたか。

○議長（三田敏秋君） 下水道課長。

○下水道課長（早川明男君） はい、承知しております。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） これは、新聞でも大きく取りざたされているのです。私どもの地域では、雪降ります。あれが降ってふたが減る。そうすると、滑ってにつながるという全国的にもたくさんある。そうすると、市の補償なのです。ところが、これは全国で数なんか1,500万個あって、1,500万個。村上市も数は恐らく課長調べておかないでしょう。これは、耐用年数は車道で15年、歩道で30年なのです。ところが、これ全国的になかなか入れかえないのです。なぜ、お金がないからです。そこで、今国土交通省は、各自治体も計画的な交換計画があれば補助対象もすると言っているのです。これ新聞に載っておるのです、これマンホールのふた。2割が老朽化。この1,500万個の2割です。いわゆる耐用年数が過ぎ老朽化しているのです。そういう危険性を満たすふたになっていますよということが新聞で報道されています。

そこで市長、課長でいいか、課長、皆さんこれ金のかかることなので、大変だと思います。こういうことを今耐用年数も知っているという答弁でしたが、これから年次的にそういうことを考えるということを計画がありますか。

○議長（三田敏秋君） 下水道課長。

○下水道課長（早川明男君） 市内全域の下水道マンホールのふたにつきましても、確かに耐用年数はございますけれども、例えば塩害であったりとかその辺各支所からも交換しなければならないというものをいただいております、年次的に進めてきたところでございます。ただ、しかしながら、本当に老朽、要は耐用の年数を迎えずとも古くなっているものがございますので、平成29年度、29年の12月になりますけれども、国のストックマネジメント計画というものを、これを作成いたしまして、

現在国の補助金を活用しながら下水のマンホールを改修するという事で新年度予算にも計上させていただきます。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 課長、ひとつよろしく頼みます。

次に、消防団、消防長、最近火災多いですね。本当に正直火災が発生すると死亡事故もくっついてついてくる。この対策、消防長は何が一番原因でこうなるかということ、端的に何か内部でいろいろ工夫しているでしょう。あったら教えてください。

○議長（三田敏秋君） 消防長。

○消防長（長 研一君） 火災につきましては、やはり火事を起こさないということが一番になります、まず初めに。ということで、そちらのほうの注意喚起していくことを考えておりますし、あと死亡の火災ということになりますと、こちらのほう逃げおくれ、こういったことが考えられるわけですので、住宅用の火災警報器、こちらのほうについて設置されていないお宅につきましては、いろいろこちらのほうでもPRしてまいりたいと、そのように〔質問時間5分前の予告ブザーあり〕考えておるところでございます。

○議長（三田敏秋君） 板垣一徳君。

○25番（板垣一徳君） 確かに火災が起きなければ、これはもうあなた方も必要ないのです。死人も出ません。けが人もないのです。しかし、そうするにはどうするかということです。

それで、私ども山北町あるいは荒川の火災もつい最近でありますけれども、無理して危険なところに行くという事故ですよ、荒川の場合は、私の聞いている話では。しかし、私山北の場合も新聞を見て新潟県全般に言えることは、まずひとり暮らしの老人家庭がふえてきたということです、消防長。そして、その空間に私ども地域は、ひとり暮らしの1軒がある。横隣が空き家になっている。こういう地形的な地域も見えるのです、今。この前の私どもの地域は、まず1つは老人であると。老人になると耳が遠くなる、足が弱くなる、足が弱くなれば逃げるのが遅くなりますよね。そういうことが大きく私は要因しているのではないかと思うわけです。

そこで、火災警報装置、これも1カ所、火元になる台所とか火を使うところに1カ所つけるだけでは、向こうの奥のほうの部屋に寝室になっていきますと聞こえません。そこで、これからこれは消防団をお願いをして指導をしていっていただきたいということは、火災警報器をひとり暮らしの人あるいは老人家庭にはもう義務づけですよ、市が負担しても。そして、火元から寝室にもつけておくということです。そうすることによって火が火災警報装置がこっちが鳴れば寝室も鳴るのですから、そういう火災警報器をつけてこの防止に努めると、万が一のときの。それから、自主防災組織、これはいつも議会でも出ていますが、この自主防災組織の拡充は絶対的に必要なのだけれども、おのおの集落に力がなくなって限界集落に近い集落になっているということなのです。ですから、なかなかこれ自主防災組織がやろうとしてもできない状況です。この辺の工夫を消防署として、団

として、私はその辺が極めてこれからのこの火災防止、火災の万が一の、もちろん予備消防が一番いいです、予防消防は。起こさない。これは、絶対的な要件であります、起きたときに備えるこういうことをいま一度内部で研究してもらいたい。そして、これは今の国会で私聞いていましたら、消防団の交付税、人口10万人に1億円ずつ金配付になっているのだそうです。ここ6万人ですから6,000万円来ているはずですが、これ確認とらなくてもいいですが。だって、国会に出ることだから間違いないと私は思います。時間がないので、そこまではしませんが、とにかく消防長何とかしてこの火災が万が一発生しても死亡事故を起こさないような取り組みに全力を注いでください。

○議長（三田敏秋君） 消防長。

○消防長（長 研一君） ただいま議員からご指摘の本当に住宅用火災警報器、個別に〔質問時間終了のブザーあり〕鳴るタイプと連動タイプというものがございます。そして、値段のほうも個別で鳴るタイプのほうは3,000円から4,000円で購入できると思っておりますし、連動タイプになりますと7,000円から8,000円くらいの金額になると思います。そんな形で連動型のほうが当然いいわけでありまして、高齢者とかそういった方の場合につきましては、いろいろと利用できる部分も、支援、利用できる部分もあろうかと思っておりますので、その辺もあわせてPRしてまいりたいと思っておりますし、消防団と自主防災組織、こちらの関係等につきましても、私ども消防団のほうともいろいろ相談しております、やはり地域に合った形でその地域地域でいろいろ考え方を持っております。また、状況も変わっておりますので、その地域に合った形のものを今後つくり上げていきたいと、そのように考えておるところでございます。

○25番（板垣一徳君） どうも消防長ありがとうございました。最大限防げるように努力していただきたいと思っております。

以上で私の代表質問を終わります。大変ありがとうございました。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで驚ヶ巢会の代表質問を終わります。

午前11時10分まで休憩します。

午前10時56分 休憩

午前11時10分 開議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

○議長（三田敏秋君） 次に、清流会の代表質問を許します。

15番、平山耕君。（拍手）

○15番（平山 耕君） 清流会の平山です。先ほどの板垣さんの質問とダブらないようにして気をつけて話をしますので、よろしく申し上げます。

最初に、市長の施政方針からお尋ねしますけれども、市長はさまざまなメディアから本市の観光

や物産のことを取り上げていただくようになってきており、このことはふるさと応援寄附金やお礼品による物産振興などに大きく貢献しておるが、本市の魅力や発信力が大きく高まり、市民の誇りの醸成につながっていると強く感じているとありますが、私もそのことは考えております。

そこで、さらにこの村上市の魅力を上げるためにはどのようにすればいいのか、まずその点を市長から伺いたいと思いますけれども。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） これまでも今々始まったわけではなくて、これをずっとこれまで先人たちが取り組んできた、また我々の先輩が取り組んできた結果が今こういう形で花開いているのだろうというふうに思っております。ですから、まずそこにはしっかり感謝をして、これまでの取り組みがそういう結果を生んだわけでありますから、さらにそれをいろいろな意味でブラッシュアップしていけばさらに、要するに効果的にしていけばもっともっと伸びるのかなというふうに思っています。ですから、今やっている方向性というのは間違いないわけでありますから、これをしっかりと信頼を損なうことなく進めていくということがこれからさらに魅力のアップにつながるというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） さらには、今年の5月1日に待望の新天皇陛下の即位があります。それは、同時に雅子妃殿下が皇后陛下に即位されていくことにつながっているわけでありまして、そうなれば当然村上のまちは盛り上がってくるのではないかと推測されます。以前に当市に群馬県館林から視察に来られた方がいたのです。たまたま私が対応したのですけれども、館林は今の皇后陛下のご出身のところなので、そういうときどういことをされましたかと自分尋ねたのです。そうしたら、やっぱりちょうちん行列とかやって非常にまちは盛り上がったと言っておられました。だから、必ず国からもそれ相応の支援というか、そういうものが出てくると思うし、また私ども村上市でもやらなければならないと思いますけれども、その点については市長はどんなような考え持っていますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 議員ご指摘のとおり、我々はこれまで平成5年の雅子皇太子妃殿下のご成婚のとき、さらには愛子内親王ご誕生のときということで市民挙げてのお祝い事に取り組んできました。これがまたまさにゆかりのある地である我々の率直なと申しますか、素直な思いなのだろうなというふうに思っております。そういったところにはしっかりと寄り添いながら、行政としては今度はそのかわり方がありますので、現在皇位継承検討委員会、これ政府で組織をされておりますけれども、そこでの取り組み、またこれまでの慣例、そういったものを全て検証しながら今準備を進めているというところであります。私のところにも各団体からいろいろなご要望やらその内容についてお届けをいただいておりますので、それとしっかりと組み立ててどういった5月1日を迎え

るべきなのかということをもう少し時間ありますので、議論させていただきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 雅子妃殿下のご成婚の際は、村上市は村上市で郡部は余りそこまでは盛り上がっていませんでした。でも、今回はもう郡部も一つの村上市ですから、やはり全部巻き込んで、市全体巻き込んだ形に持って行ってもらいたいと思うし、観光協会も各郡部があるわけですので、そのような方たちともよく協議をしながら進めてもらいたいと思いますけれども、いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 皇太子妃ご成婚のときには、村上市に戸籍がおありになりましたので、それを除籍をするという作業がありました。今回は、既に皇室にお入りになられている方ですので、その方に対するその祝意をどうあらわしていくのかということについて、今実は内部では議論させていただいております。議員ご指摘のとおり、合併前の出来事でありましたので、今は合併後のこの出来事になるわけでありましたので、その辺のところは市民こそってというような意識が醸成されるようなそういう仕組みづくり、またかかわりを持てるようなそういうものにできたらいいなというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 以前のことを言うのもちょっと変なのですけれども、旧村上市のときはやっぱりどうも何かちぐはぐでないかなということも思っていたものですから、今回はしかしかと市議会と市でもバックアップしてそういう盛り上げの行事には参加してもらいたいと思います。

いきいき元気な笑顔輝く、支え合いのまちづくりでは、村上総合病院の起工式がようやく2月の17日に行われました。そこで、先ほども板垣さんもおっしゃっていましたが、医師確保の問題。あの新潟日報のきのうの新聞、あの記事によると、新潟県は全国で46番目だそうなのです。ということは、しかも新潟があつて、この村上に来る医師なんか本当にいるのかどうかというのは非常に疑問であるし、問題があるのではないかと思います。よほど頑張らないとなかなか来てくれないのではないかと思いますけれども、先ほども答弁されていましたが、もう一度何かおっしゃってください。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） そういうことにならないように今しっかりと取り組みをさせていただいております。議員ご指摘のとおり、全国で10万人規模で推計をされているわけでありまして、46位というふうな形で、それ新潟県です。さっきの厚生労働省との関係で言いますと、2036年度までにそれを満たすためのロードマップはもう示されているのですけれども、私のほうからは2036年では遅いよねという話を直接させていただいております。我々は、そうした中であって今日の前にある医療をどう確保していくのか。それと、村上総合病院が移転新築をした後新たな病院になったとき

にどういふふうな制度の中でどういふ医師を確保してどういふ診療科を提供していくのか。さらには、これから人口は残念ながらまだ若干減りますので、そうしたときこの下越の医療圏をどういふふうに守っていく、また村上岩船郡エリアの基幹病院としての村上総合病院がどういふ役割を果たしていくときにどれだけの医師が要るのかというところを5年後、10年後、20年後というようなそういう幾つかのスパンに切り分けながらしっかりと議論していくことが必要だねということをお願いさせていただいて、ここでも議論させていただいております。したがって、何人具体的に必要なのだということをお新瀉大学の医学部にも申し上げていきたいというふうに思っておりますし、県のほうでもどういふふうな形で医療圏構想を立てるときにそのところを数値として落とし込むべきなのではないかというような議論させてもらっていますので、そんな中でしっかりと取り組みを進めて医師を具体的な数字で確保していくということが重要だなというふうに今取り組んでおるところであります。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 私も30から三十五、六まで大体5年くらい入院繰り返していたのです。村上総合病院には5カ月入院しましたし、その後大学病院に8カ月くらい入院していました。3年くらい入院繰り返していたのです。私大学病院に約13年くらい通ったのです。そのくらいこんなに近くに高度な医療をする、私の場合はB型肝炎だったのですけれども、高度な医療をする機関がなかったのです。したがって、今それなりの医者が来れば村上総合病院ができれば物すごい楽に病気と向かうことができたのではないかと今思っています。そんなことで、本当に村上総合病院に立派とかそれなりの治療できる医者が来てくれることを望んでいるわけなのです。自分は、さまざまな病院へ入院しているものですから、病院のあれはよくわかります。病院の評論家やってもいいくらいなのだ。行かない病院がないくらいです。でも、やはりそれなりのやっぱり施設を持ってやれば、今は自分がやった医療などというものはもう大学も古くなって誰も使っていないよと言われているのですけれども、そのかわりもう日進月歩で医学は進歩しているわけです。そんなことで、少しでも新しい先進な医療の技術を持った医者と呼ぶことが大事だと思うのですけれども、もう一回できますか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） まさに今その部分が議論されておまして、医学はどんどん、どんどん進歩します。その結果救命率も高まっていくわけでありましてけれども、そこで国のほうで今検討されているのが専門医制度ということで、ドクターとなった後に専門医資格を取るための制度をまた創設するということになります。そうすると、ただでさえそういう医療圏の中でもそういう専門性の高い大学病院でありますとかそういうものが集中しているところにドクターが集中するということになるので、そうすると格差の是正にはつながらない、遍在の是正にはつながらないのではなかろうかということをおまさにそこを議論させていただいているところでもあります。医療機関として高度な

形に変化をしていくのは大切であります。それを使いこなして医師一人一人の専門性を高めてその技術力を上げるというのは必要なのですけれども、それと同時に地方の遍在部分についてもあわせて手当てをしていくという仕組みが必要ですよということだろうというふうに思っております。ですから、ある意味そういったドクターの側面もあるのですけれども、総合力を持っている方、現に現場の先生方にお話を聞きますと、一つ一つの診療科の専門医をつくっていくよりも総合診療をスムーズに行えるようなところを優先させたほうがいいねという議論もあるわけありますので、そうした中でしっかりとそのドクターの数を、そういう形の能力のあるドクターの数を育てて、それを地方にといいですか、我々のような中山間地域、こういったところにしっかりと配置をすることは大切だろうなというふうに思っておりますので、その部分に今取り組みをさせていただいているということでもあります。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 自分の体験から今言ったのだけれども、やっぱり医療というものはかかった人でないとわからないわけです、その苦労というものは。私も若いときにさんざん言われました。どうせあなたは50まで生きないよと、そんなことも言われたのだけれども、今生きています。だから、したがって自分はやっぱりあのときに大学病院に行かなければ助からなかったと思います。そのくらいひどかったのです。今こうして生きていることは、大学病院へ行ったからこそ生きていられるというふうに思っています。自分はB型肝炎だったのだけれども、その副作用で糖尿病になっているのです。決して自分が時代おくれになったわけではないのです。そんなこともあって、やっぱり医療の力というのは恐ろしい、大事だと思います。ぜひともすぐれた医者呼んできてもらいたい、そんなふうに思います。

地域振興課なのですからけれども、村上市の住宅リフォーム事業というのは当初予算にはなかったのだけれども、これから補正予算につけるのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 地域経済振興課長。

○地域経済振興課長（川崎光一君） 3月補正予算に計上しております。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） さまざまな方からそれなくなったのだかと質問されたのです。それなぜないのだかなと思っていたのですけれども、見たら当初予算にはなかったものですから、ええというふうに思っていたのですけれども、やっぱり大事なあれです。それ呼び水となってかなりの経済効果あるわけですので、ぜひとも自信持ってやってもらいたいと思います。幸いことしは雪降らなくて除雪の予算が少し余るのではないかと思うので、ぜひともそれはやってもらいたいと思います。

環境の基本計画についてお尋ねします。地球温暖化対策実行計画期間が終了することから、経済社会情勢の変化や新たな環境問題に即応した第2次計画策定に向けて取り組むとありますが、どのようなことを取り組むのでしょうか。環境課長。

○議長（三田敏秋君） 環境課長。

○環境課長（中村豊昭君） 環境基本計画もそうなのですが、このたび平成32年度までの計画ということで第1次環境基本計画、それから村上市の地球温暖化防止の実行計画、それからあわせて新エネルギー推進ビジョンというものも3つ合わせて平成32年度に計画期間が終わるというふうなことであります。こういった内容が平成32年度で終わるものですから、平成31年度、来年度から2年かけてその内容を現在のものに合わせた形で作成していこうというふうに考えているのでございます。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 本市では、洋上風力発電を推進していたのですが、今それを中断しているのですが、洋上風力発電についてはきのうの日報の紙面でイオンが環境問題に対する社会貢献の一つとして2050年度までに店舗で排出する二酸化炭素などの温室効果ガスを総量でゼロにすることを目指す脱炭素ビジョン2050を去年の3月に発表しているのです。事業で使う電気を100%再生エネルギーで賄うということなのです。それには、やっぱり四方を全て海に囲まれた日本は、何が一番いいかという、有効かという、やはり海を使った、海のことを使ったイメージを創出するというのが一番だと思うのです。そうすれば、やっぱり洋上風力発電は有力な手段ではないかと思えます。これは、国でも多分これから支援していろいろなことが示されてくると思うのですが、市長諦めたわけではないのですよね。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 諦めたとか諦めていないかということではなくて、ここが一番ベストな洋上風力発電の立地条件を備えているところだということで議論が進んでいろいろな形で市民の皆さんからもご意見をいただきながら進めてきたと。ただ、今のエネルギー政策の中で、国が持つ電気事業者のインフラ、これとここに洋上風力発電施設を建てたときの連結がなかなか難しいということです。これは、やっぱり経済活動でありますので、コストの計算も当然していかなければならない部分でありますからそうになりました。しかしながら、現在国のエネルギー政策の中でしっかりと再生可能エネルギー、さらにはその中で洋上風力、これが海域、港湾も含めてでありますけれども、一般海域にこれから法律が改まりましたので、進んでいきます。これを当然対象として有効だということの認識の中にあるわけでありまして、ですから、我々は今これまで培ってきましたその知見をしっかりと財産としながら、新潟県でいよいよ新潟県沖の洋上風力発電事業についての研究会が始まります。県にもさまざまな事業者がアプローチをかけておりますので、その中でしっかりと具体的にそれが構築され、さらには新潟県民にとっての大きなエネルギー政策としての恩恵を与えながら、いわゆるそうなれば結果として村上市民も一人一人その恩恵に浴するわけでありまして、そんな事業に進められるように丁寧にこれから進めていくということが大切なのだろうというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） ぜひともそれは、粘り強く諦めないで前向きに検討してもらいたいと思います。

次に、市産の農産物を全国へということ、地場産の農林水産物の販路拡大、生産量増加のために首都圏を中心とした市外への取引先への流通、販路拡大を促進するというふうにありますけれども、どのようにしてこのことを考えていますか。副市長どうですか。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） これは、ことしに限ったわけではなくて、これまでも続けてきたことであります。特にふるさと創生事業を活用して首都圏への特に外食産業あるいは一般消費者向けのマーケティングというふうな形でマッチングフェア等を開催しながら、そこにご来場いただく業者の皆様、そしてまた消費者の皆様方と交流を図りながら販路拡大を目指しているところであります。市内からも農業生産者を初め、各事業者も含めて参加をいただいておりますし、これも継続的に、精力的に進めていきたいというふうに考えてございます。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 現在大規模農家、一部の農家なのですけれども、米の輸出に真剣に取り組んでいます。それによると、平成28年度新潟県産米の海外輸出は、輸出量で2,578万トン、金額で5億348万円と右肩上がりに推移していますから、昨年はかなり額の額に上ったと考えられます。何を言いたいかといいますと、米の需要は毎年8万トンも減少していくのです。これから少子化がますます進みますから、ますますそれはその減少幅は大きくなっていくものと考えられます。そうして見ると、幾ら頑張ってみてもなかなか米の消費は上がらないのです。新潟県産の業務用米は、プレミアム感があるので、拡幅力があるのだそうです。輸出を拡大して海外需要を取り込む力があると考えています。これをしなければこの農地をすら維持できなくなるのではないかなというような気がします。何億円もかけて国の補助を受けて立派な圃場整備等したのだけれども、それすらも維持できなくなる危険性があるのです。それには、やはり米の売り先の拡大をしなければいけない。もちろん農協もようやく輸出に対して本格的に取り組み始めましたけれども、本市には2つの農協があります。市で音頭をとってその輸出に対して支援するような考えはありませんか。これも副市長どうぞ。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） 米の消費は、確かに人口減少に伴いだんだんと減退してきているというのは実態として私も承知をしております。その一方で、海外向けの輸出が非常にふえているということも実態としてございます。特に昨年は、これまでなかなか開けなかった中国への輸出が始まるということで、これは新潟県も含めてそこに目がけてさらに強力的に進めていこうというそんなことも言われております。市内の大きな2つのJAさんにおきましても、取り扱い量も多いわけであり

ますし、それを含め、その他の農業、米の集荷業者さんも含めて国内外をあわせて需要の拡大、そして販路の拡大に一層努めていきたいというふうに考えてございます。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） やはり当市は、農業が基本だと思います。農業なくしてやっぱり市の発展はないと考えられます。ぜひとも一縷の望みだとは思っています。これからどんなことしても米の消費なんてそんな簡単に伸びるわけではないのです。やっぱりこれからは、多分中国、シンガポール、香港とかは日本と同じような消費水準になっていくと思われまます。そうすれば、必ずおいしい米が売れるような仕組みができてくるというふうに考えられますので、ぜひともこの点について市が音頭をとって進めてもらいたいと思いますけれども、よろしくどうぞお願いします。副市長もう一回。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） かしこまりました。集荷団体等と十分にその辺を戦略を練りながら積極的に前向きに進めてまいりたいというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 次に、刻々と変わるのだけれども、質問の内容変わるのだけれども、あくまでも議案に示されたとおりにやっていますので、心配なさないでください。

今新聞やテレビで連日のように報道されている子どもの虐待や不登校、引きこもりなどについて、家庭相談員や保健師、民生委員、教育委員会などが連携を深め、問題解決に当たるよう支援を行っていくとありますけれども、現時点でそのようなことがどのくらい把握されていますか。教育長ですか。福祉課長。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（山田和浩君） 今現在家庭児童相談の中でもさまざまな情報が入ってきております。ただ、そこだけで本当に対応できる相談ではございません。保育園、また本当に学校からも入ってきておりますし、保健医療課との保健師との連携なんかも強めながらそういう情報を取り入れながら、その家庭に応じた、またどのような対応をしていけばいいのかというようなところを内部で話し合いを行いながら、また家庭児童相談所などほかの団体のほうとも相談をさせてもらいながら対応させてもらっているところです。申しわけありません、具体的な数字何件とかという話にはちょっと今なっていないのですけれども、そのような対応をとらせてもらっておりますので、またこども課になることによって家庭児童相談、またことばとこころの相談なども含めて連携のとれた対応を目指してまいりたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 国では、法律で親が子に虐待するなというようなことを決めるようなことまでなっていますので、親が子を、本当に信じられないのだけれども、あるのでしょうか、やっぱり。教育長にお尋ねしますけれども、いじめとかそういうものは今どのくらい、ないですか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） ちょっと件数は正確に申し上げられませんが、不登校はなかなか減らない傾向でございます。それから、いじめに関しては、やはり特に小学校において認知、小さなことでも学校側は報告していじめだと判断していますので、認知件数はふえている状況です。その中で虐待の件ですけれども、やはり教育委員会としましては本市においても虐待の事案はあると認識しているところです。さまざまな例えば乳幼児健診とかそれから保育所における観察、それから学校においても同様の服装、食事の状況、健康診断の状況とかあと歯科、歯の歯科医の検診も大事だと言われております。さまざまな状況で大人が、誰かが気づいてやらないと虐待は防げませんし、それから命が脅かされるような事案になるまで連携していないということは許されることではございませんので、今後も本当にさまざまな関係部署が連携して虐待の未然防止、それから深刻な状況にならないように努めてまいりたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 確かに親が子を虐待するなどということは、本当に我々考えられないのだけれども、でも実際あるわけだ。だから難しいと思うのです。そのことも含めて注意深く子どもたちを見守ってほしいと思います。教育長もう一回どうぞ。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 現在国、県のほうからも2月14日付で児童虐待が疑われる事案に係る緊急点検の依頼が来ております。この2月1日から14日の間で全欠、学校を全部休んでいる児童生徒の正確な把握、そしてそれに対して学校等がどのように対処しているのか、一度も顔を見せていない場合などは、なぜそういう状況になっているのかなどについて点検することになっておりますので、また丁寧な実態把握に努めながら対策を強化してまいりたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 子どもの問題については、なかなか本当に一筋縄でいかないというのは、本当に自分も子ども育てた経験あるし、今孫も見ているのだけれども、本当にそう思います。子どもは、やっぱり国の宝だと思うのです。だから、とにかく注意深く子どもたちの行く末を見守ってほしいと、そんなことを思っております。では、よろしくお願ひします。

次に、12月議会で私は市長に対して6月の市長選挙に出馬しますかという質問をしました。それに対して市長は、後援会の方たちともよく相談して立候補の意思は固めてありますと答えています。そして、着々と市長は市長を囲む支援者や特に女性を中心とした輪を広げているのも私よく知っています。しかし、最近どうも雲行きが怪しくなり、耳にするのは必ずしもよい評判ばかりではないようです。それは、市長ですからさまざまな批判に対しても一々反論している場合ではないと思いますけれども、今回議会上程されている全議案48議案は、市長がリーダーシップをとって執行しなければならぬものです。村上市の前途を市長に託されていると言っても過言ではありません。

今ここでなすべきことは、雑事に惑わされることなく、粛々と職務に励んでもらいたい。それが市長の市長たるゆえんだと思いますけれども、市長はいかがですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） ご指摘ありがとうございます。

常にそういう心構えで今日まで取り組んできたつもりであります。行政が施策、また政策を決定していくときに、いろいろなやはりご意見があります。ただ、その中でいろいろなそういう状況に直面したときに何が一番ベストであるのかということを含め、追求をしていきます。それから選択をしていく。これが将来にわたっての市民にとっての幸せ、財産につながっていくのだということ、これの確信のもとに動いているわけであります。それが全てオーケーということにならないのも承知をしているわけであります。そうした中で、我々は組織でありますので、そういったいろいろな個別な課題を丁寧に分析をしながら積み上げてきたその結果が毎年毎年の予算であるというふうに理解をしております。ですから、私はしっかりそれをなし遂げること、さらにはこれやっている途中でやはり変化をさせなければならぬとか修正をしなければならぬということも当然出てくるわけでありますので、それを漫然とそのまま進めることなく、さらに効果的なものに変えていくというそういう感覚も持ち合わせながら毎年度毎年度進めていくこと、これが肝要だというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 市長には、ぜひとも6月の選挙はもちろんのこと、それからずっとまだまだ続くわけですので、健康に留意されて頑張ってもらいたいと思います。

まだ時間があるみたいですので聞きますけれども、西神納小学校についてお尋ねしたいと思えます。西神納小学校は、ことし改築して来年神納東小学校、西神納小学校と統合されるわけなのですが、大体どのような形、教室もふえると思うのだけれども、どのような形になりますか、ちょっと教えてください。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（木村正夫君） 西神納小学校の改修につきましては、クラスが2クラスほどふえますので、クラス、そういったあと特別支援教室も今後ふえるだろうということを考慮して2階の4教室ほどをふやす、増設する工事になります。また、調理場が今度3校分の児童の調理をすることになりますので、給食数が多くなりますので、あわせて給食調理場の改修も行います。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） あの学校は、まだ建設されて23年ぐらいしかたっていないと思うのだけれども、そうですね。〔質問時間10分前の予告ブザーあり〕だから、まだまだ使えると思うので、基盤はしっかりしているの、ぜひとも改築もよろしくどうぞお願いします。

それで、そこの生徒のスクールバスの面についても心配はないのですか。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（木村正夫君） スクールバスについては、今統合推進委員会の中で協議していると思いますが、各集落、西神納小学校、また神納東小学校についてはスクールバスが出ることで考えております。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） たまたまことは中学校の統合があるし、来年は小学校の統合があるのだけれども、たまたま私神林ですので、神林の場合は自分たちが旧神林のときに最後に中学校は1つ、小学校は2つにするのだということを議決をしてきたのです。それがなかなか進まなかったのです、ずっと。やっと今になって来たのですけれども、いつになるのかなということを思っていたのですけれども、そのときから西神納小学校を統合学校に使うのだということは決めていたのです。だから、それはそれでいいと思います。たった一つ、あそこグラウンドが狭いような気もするのだけれども、その点は変わらないですか、グラウンド。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（木村正夫君） グラウンドについては、改修する予定はございません。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 生徒は、やっぱり少しでも広いほうがいいと思う。ただ、あそこはパルパークがあるので、運動するところには不便はないと思うのだけれども、ぜひとも上手に運営していかしてください。よろしくどうぞよろしくお願いします。

地域未来塾の開設ということで176万円もなっていますが、地域の力を活用して中学校の放課後学習を支援するということなのですからけれども、自分たち前に大分県の豊後高田というところに行って研修に行ってきたということをやっていたのです。それで、すごく学習効果が上がって、豊後高田は小さいまちなものだけれども、大分県でも一、二を争うような学力のところになっていました。だから、この辺がやっぱり呼び水となって学力が上がればいいなと思いますけれども、どう思っていますか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） この地域未来塾、中学校3年生の家庭学習の習慣が定着するということなどを願って実施させてもらっておりますけれども、本当に特に中学校3年生は3年生の時期になると受験もありますので、家庭学習の時間は2年生のときよりは急速に伸びております。ただ、この事業を開始したことにより、よりその効果があらわれておりますので、特になかなか自主的には勉強できないような児童には大いに刺激になっております。平成31年度新たに新神林中学校、山北中学校も事業対象にさせていただきますので、これで全中学校7校全て実施できるということで大変有効な事業だと考えております。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） もう一つ新規の事業で部活指導員の配置というのがあります。以前神納中学校にバスケットの指導員の方を呼んで、そのときたまたまバスケット下越大会で神納中学校2位になったのです。2位になって、そのときの破った学校がたまたま県の1位、県大会優勝したのです。そうしたことがあって、非常にコーチの力があつたのですけれども、でもなかなかやっぱりそのコーチと先生が連携がうまくいなくて結局そのコーチはやめざるを得なくなって、当然それからじり貧になって〔質問時間5分前の予告ブザーあり〕しまったのだけれども、そうした心配ありませんか。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（木村正夫君） このたびの部活での指導については、顧問が例えば担当したクラブ活動の技術指導が不足をしていたりした場合のちょっと今そういった問題ございます。また、教員の多忙化解消というこの2つの面から今回この制度を創設するものでございます。ですので、また内容的には技術の指導、それともう一つは大会引率、それについて行うことができます。当然学校との今度は連携という部分十分していくということでの制度設計になっておりますので、その点は解消されるのではないかなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 今神納と平林が合併するわけですので、生徒数はある程度確保されてクラブ活動もスムーズにいくのではないかと思いますけれども、やっぱり例えばサッカーとか野球とかバスケットみんなやるとなるとやっぱり生徒数が足りないわけです。そうしたときにパルパークを使って他の学校との連携とかそういうことは考えていませんか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 現在特に神林地区においては、総合型スポーツクラブと2つの中学校の校長、保護者等が連携しながら、教育委員会も入っておりますけれども、新しい形のその部活動のあり方を模索しております。その中で総合型が中心となりながらそういういろんな子どもの要望に応えるようなスポーツ活動ができないのか。部活動としてはできないかもしれないけれども、さまざまな調整の仕方があるのではないかとということで検討しているところでございます。そのような子どもたちの要望は、かなえてやらねばいけないと思っているところです。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 最後、地域の特性を生かした魅力ある国づくりということで地域協力隊のことがありますがけれども、地域協力隊は現在何人いてどのような活動をされているかちょっとあつたらわかる範囲でいいですから教えてください。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（大滝 寿君） 地域おこし協力隊のことですが、現在きょう時点でですけれども9名、村上市全域で2名、それは関係人口とグリーンツーリズムの促進ということで入れております。

それから、神林にほたるの里の保全ということで1人、それから朝日地区にまゆの花の継承ということで1人、それから高根の地区に民間ワサビの促進、それから高根の関係人口ということで2人、それから山北地区には買い物困難支援ということで1人、それから日本木を生かしたネイチャーガイドの案内促進ということで1人の合計9名ということです。

以上です。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） そのような方たちは、地域に溶け込んで地域の方に受け入れられていますか。受け入れられて活動していますか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（大滝 寿君） 協力隊を採用するに当たって、地域からの声を今までは最優先というような形でやらせていただいております。当然その受け皿としての地域の要は理解、それから隊員としての地域への理解ということを私どもも間に入りましてアテンドしながら入れているというような状況でございます。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） 何か神林の方は、ことして退任するという話聞いたのですけれども、本当ですか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（大滝 寿君） 神林の隊員につきましては、今年度2年目でしたが、一応退任をしたいというようなことで12月の末に申し出がありまして、そのような話で伺っております。ただ、本人の意思としましては、村上市に残りたいというようなことで聞いております。

○議長（三田敏秋君） 平山耕君。

○15番（平山 耕君） どうもありがとうございました。時間になりましたので、これで終わります。どうもありがとうございました。〔質問時間終了のブザーあり〕（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで清流会の代表質問を終わります。

午後1時まで休憩します。

午前11時58分 休憩

午後 0時59分 開議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

発言の訂正

○議長（三田敏秋君） ここで自治振興課長から発言を求められておりますので、これを許します。自治振興課長。

○自治振興課長（大滝 寿君） 午前中清流会、平山耕議員の代表質問の際の最後の質問で地域おこし協力隊員の人数と任務に関するご質問に答えた際、9名とお答えいたしましたが、その詳細についての説明で朝日地区大須戸農家民宿ひどこの管理をお願いしている隊員を紹介していませんでした。追加して訂正いたします。

大変済みませんでした。

○議長（三田敏秋君） ご了承願います。

○議長（三田敏秋君） 次に、新政村上の代表質問を許します。

19番、長谷川孝君。（拍手）

○19番（長谷川 孝君） 新政村上の代表質問を行います。よろしく申し上げます。

私は、代表質問として大体10前後をやりたいというふうに考えております。それで、前後する面もあるかもしれないですけども、一応最初には村上総合病院の道路整備、そしてそれにかかわる医師の確保、この2点についてまずお尋ねいたします。

最初に、県道の岩船港松山線バイパス、これが村上総合病院が開院したと同時に七湊側から16メートル道路の市道緑町松山線ですか、その部分に関しては病院の開院と同時に開通するという予定で間違いないですよ。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（山田知行君） はい、間違いございません。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） それと、あとその先線というのですか、右側のほう松山のほうに向かって行くその松山バイパスは、2年後ぐらいに一応予定はしているというふうに前に聞いたことがあるのですけれども、そこにはどこにぶつかる予定なのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（山田知行君） 県道の345号のほうにタッチする予定です。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） その345号というものは、瀬波温泉トンネルの出口付近というふうに理解していいのですか。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（山田知行君） 現在のところ交通安全上のこともありまして、瀬波トンネルの抜ける最後のタッチから100メートル以上バックしたあたりのところがタッチの予定となっております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） まだ予定で決定はしていない。場所的には、どこに抜けるのだというふうには決定はしていないというふうに理解していいのですか。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（山田知行君） 松山バイパスにつきましては、法線の決定はしております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 今しておりますと言いましたよね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○19番（長谷川 孝君） しておりますということは、出口のどの辺にぶつかるというもの、ちょっと手前になるというふうには理解していいわけですね。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（山田知行君） 先ほど申し上げましたように、トンネルの出口のところから10メートルぐらいバックしたところが法線上となっております。345号のほうの法線となっております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） そうすると、今三差路になっているところが四差路になるというふうな形にはならないというふうに理解していいわけですね。

○議長（三田敏秋君） 都市計画課長。

○都市計画課長（山田知行君） 今のところは、345号のところに四差路にはならずまきにバイパスがタッチする形になっています。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） それで、市長にお聞きしたいのですが、実は5市町村が合併する前の合併協議会というところの基本計画の搭載事業というものがありますよね。それは、30、34があるのですが、その中で村上市がやらなければだめな部分に関しては、たしか1つだけ、文化財の展示するその場所の予算でまだ着手していないと。それと、県の3つの事業のうち瀬波トンネル先線、つまり松山から瀬波上町までの間、これは地域審議会等で10年間進捗状況とか話し合われて、地域審議会も解散して、その最後の中での報告の中で瀬波温泉トンネル先線については引き続き県に要望してほしいというふうに地域審議会としては答申したと。村上市としても、村上総合病院の移転新築と開院時期が示されたことや道路整備に対する市民及び関係者の強い要望があることから要望活動を行うとともに、整備の手法についても県と連携を図りながら研究・検討を進めていきたいというふうに報告書には載っているのですが、これが33事業所の中で搭載事業でまだ着手していないという部分なのですけれども、事業として。これは、一時1年前か2年前ぐらいですか、ある議員が市がやればいいのかなどということも言った時期があって、県あたりもおもしろくないとは思っているけれども、市長としてはこの瀬波温泉先線については、やはり県にずっと要望して、できれば早く着手してほしいというふうなお考えでしょうか、ちょっと。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 瀬波温泉トンネル先線の部分については、これまで私何回もこの場でもお話

をさせていただいたと思いますけれども、必要な道路でしょうということでもあります。それと、今都市計画の課長のほうから申し上げさせていただきました部分については、まず村上総合病院の移転新築の時期が決まっておりますので、そこへアクセスする道路、それと病院そのものの利便性の向上、まずこれを最優先にしていこうということでもあります。それと同時に345号と交差をするトンネル先線の部分について、県ともしっかり協議させていただいておりますけれども、事業の優先順位という並びもあります。県も村上市が地域審議会のほうでさらに合併後議論していきたいという経緯を踏まえても、やはり県のお立場もあるわけですので、そこのところと真剣に今議論をさせていただいているということでもあります。基本的にこれまで同様あの路線については必要な路線であるという認識に変わりはありません。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 一時どなたかが都市整備課長のときに、何年も前なのですけれども、あの必要性とは私もたしか一般質問した時期があったのですけれども、コンパクトシティというものも考え方をちょっと取り違えた答弁したことがあるのです。ということは、今この村上市にコンパクトシティなどといえば、前にも私一般質問とかでやりましたけれども、この広大な面積にコンパクトシティになったらある程度もうはじかれるところがいっぱいあるから、緊急時の病院搬送とか、それから市長がよく言っておりますけれども、高速道路がそのかわりするというようなことも含めて、やはり必要な、市民にとって非常に必要性のあるところに関しては、やはりもちろん市長も県のほうに要望活動をしているということは、県会議員とかを通して聞いています。でも、今の優先順位から言ったら、やっぱり相当高いのではないかというふうに私は思うのです、その優先順位が。村上市にとっては高いけれども、新潟県、県単位から言ったらそんなに高くないと言われればそれまでなのだけれども、でも村上市の今の市民の生活を守るということを考えた場合に、やはり今の駅西に村上総合病院が来るということを前提に考えたら非常にやはりあの先線というものは非常に重要な道路になるのではないかというふうに思っておりますので、ぜひともこれからもご尽力をよろしくお願ひしたいというふうに思います。

それと、前の方もお話しされましたが、村上総合病院を含めた医師不足という問題があります。そこで、研修医のための貸与の修学生に関しては、先ほど保健医療課長のほうから2名の平成31年度の応募があるというふうにお聞きしましたが、実際ネットで村上市の人数を調べると、その修学生の募集が1名になっているのですけれども、前私どもの説明では私学生1名と公立1名、若干名というふうな形だったと思うのですけれども、何で1名になったのでしょうか、ちょっと教えてください。

○議長（三田敏秋君） 保健医療課長。

○保健医療課長（信田和子君） 平成30年度は若干名ということで、公立、私立合わせてそれぞれ募集をかけておりましたけれども、実際に修学生の面接をしたり話の内容をお聞きいたしまして、本

当に市のために将来医師となる意思があるその修学生を確保するためには、数ではなくて、確実に1名ずつその気持ちがある生徒を、医学生を選んでいくことが大事でないかということで、平成31年度から1名の募集とさせていただいたところでございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） そうすると、平成31年度分として2名いるのだけれども、1名にもう絞ると。例えば5名来ても1名しかそういう奨学生は受け付けないのだという考え方なのですか。

○議長（三田敏秋君） 保健医療課長。

○保健医療課長（信田和子君） ただいまの現在のところ2名の応募者があったというところでございますので、まだ締め切り前でございますから、今後ふえる可能性もあると思います。また、最終的な応募者に書類審査と面接等をさせていただいて現在のところは1名で決めさせていただきたいというふうに担当課のほうでは考えているところでございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） この医師不足というものは、前の方も非常に重要な問題だということで市長に再度お聞きしたいのですけれども、例えば1名となっていればもう1名しかとらないのだなというふうなことになるのですが、若干名の場合は例えば二、三人ぐらいとるのでないかというふうなことで募集に応募してくるということになると思うのですが、何人か来た中で優秀な人材となりそうな人が2人、3人といた場合には、1名というよりも若干名にしておいたほうが良いような気がするのですけれども、その辺若干名が1名になったのを含めてちょっと市長にお聞きしたいのですけれども。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 議員ご指摘のとおり、そういうことで、当初の制度設計は私大、国公立大ということで1、1というような付近でスタートさせたというふうに思っておりますので、いずれにしましても多くのふるさとに愛着を持っていただいてぜひここでドクターとして貢献をしたいというその思いには応えていきたいということであります。それとあわせまして、予算の範囲内ということにもなるわけでありますので、そここのところの兼ね合いをしっかりと見きわめていくことが必要だということであります。したがいまして、今回さらに深掘りをした形の中で具体の修学援助を行うその学生を選択をしていきたいという判断に立ち至ったということであります。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 余り答弁になっていないようですが、まずそれで村上総合病院に研修医として赴任されて何カ月かいた方の感想文が載っているのです、村上総合病院のホームページからあれすると。そこに2名の方の感想文がありました。環境については、研修医としての環境は物すごくいいと。それは、逆に言えば田舎だからいいのかというふうに考えられる面あるのですけれども、環境はすごくいいと。医師も非常に親切にいろいろ教えてくれるという反面、逆に悪い面はという

ふうなことでも答えています。それは、建物が古いというのは、これは新しい病院になれば解決する問題だからいいとしても、その研修医の方は古い、電子カルテでないという部分言っているのですが、今村上総合病院というものは、この方がいたときにそういう電子カルテでなかったのだけれども、今は電子カルテになっているのでしょうか。それちょっとお聞きしたいのですが。

○議長（三田敏秋君） 保健医療課長。

○保健医療課長（信田和子君） 申しわけございません。そこまで把握しておりませんでした。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） これちょっとやっぱり把握してもらいたいのは、電子カルテでなければ来ない研修医も多いというふうに本人が書いているわけ、手書きだと。やっぱりそれがデメリットに仮になっているとしたら、全国から研修医を集めた場合に。だから、そこをちょっともう一度確認していただきたいと思いますが、よろしくお願いします。

議長。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） それともう一つだけついでに申しわけないのですが、今ジェネリック薬品というものが物すごく普及して、相当薬が安くなっているというのは私も認識しているのですが、この後発薬品によってやはり医療費というものは相当違ってきているのですか。それについてちょっと教えてくださいか。

○議長（三田敏秋君） 保健医療課長。

○保健医療課長（信田和子君） 医療費というところではっきりとは見えておりませんが、効果額というところで、済みません、今手持ちはございましたが、前回の委員会の中で金額をお示しさせていただいたところがございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） では、次に、青年後見人制度についてちょっとお聞きしたいのですが、今この前もお話ししましたように、岩船で障がい者のグループホームというものが岩船の住民の説明会をやりますと反対する人はほとんどいないのです、はっきり言って。そういうやはり時代がそういうふうになったのかなというふうには思うし、岩船はやはり大学等看護学校もあるし、なるべく福祉に力入れてみんなで支えていこうではないかというような機運が高まっているのは喜ばしいことなのでないかと思います。ところが、このグループホームを私長岡で見に行ったときに施設長が言っていたのは、この方がやはり年齢を重ねてくると最終的に誰も後見人、つまり見てくれる人がいないのだから、非常に後見人制度というものが重要になるのだというふうなお話をしていたのを感じましたので、この後見人制度というものの今の進みぐあい、社会福祉協議会だけに任せているのではなくて、もう少し別なやり方をすべきだと思うのですが、その辺を含めて福祉課長ですか。

○議長（三田敏秋君） 福祉課長。

○福祉課長（山田和浩君） グループホームの関係に関しましては、本当にご理解いただきありがとうございます。岩船のほう本当に私も説明行きましたけれども、一番やっぱり危惧しているのは火事のことというようなことというようなことで、それらについては十分対応していくよう事業者にも話はしていきたいなと思っております。

今ほどの青年後見のお話ですけれども、社会福祉協議会のほうでは、確かに法人後見ということで平成30年度立ち上げました。今法人後見としては、これまで5件を受託しているというようなところ。これだけでいいというふうには私どもも本当に思っておりません。青年後見の制度、こちらをやっぱり理解してもらい、また普及していかなければいけないというようなことで、セミナーの開催などをしてまずまず広めるということから始めているところです。このセミナーに関しましては、昨年、平成30年の12月なのですけれども、市民後見の要請なんかも含めまして、桂ひな太郎師匠をお呼びしましてお話を聞かせていただいた。また、そこで意見交換なんかもございまして、好評を得たなという感じは受けております。これらの事業も今後進めていきたいなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） まず、なるべくよろしくお願いします。

それと、福祉課長もついでで申しわけないのですが、今度こども課ができるのは福祉課と隣り合わせとかというのではないのだと思うのですけれども、今の福祉課でも全然もうはっきり言えば手狭ですよ。もうあそこに例えばいろいろ相談行くときになると、もうかき分けていかなければだめなぐらい狭いと。そうすると、こども課ができれば、あのままでは無理だと思うのですが、例えば上に上がるとかを含めて今市長は組織的な場所とかというのはどういうふうなまだ決まっていない、総務課長でもいいです。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） 議員ご指摘のように、今の場所では非常に手狭でございます。その意味も含めてなのでございますが、こども課は今の福祉課の場所でございまして、福祉課は今の環境課の場所に移動する予定でございます。環境課は、3階の自治振興課のほうに移動して、自治振興課が5階の今の政策推進課のほうに移動するというので、大変市民の方々にご不便を来すわけでございますが、ご案内等全職員でもってやりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） はい、わかりました。ありがとうございます。

それと、みなとオアシス越後岩船のことでちょっとお聞きします。この前地元の県議の1人がクルーズ船を岩船港に寄港させたい。もうきのうなんか新潟日報にクルーズ船の状況が記事になって

いましたけれども、私は今の岩壁の水深の深さ等は別にして、非常にやってもらいたいという気持ちがあります、はっきり言って。瀬波温泉とかも泊まっていたら一番いいですし、いろいろな観光資源を見てもらうということと同時に、もしそれが来れば岩船でも新しい観光資源をつくろうではないかという機運まで出ているぐらいなのですが、そのような形というのは市長は何か県議の情報とかをキャッチしながらというようなところがありますでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 県議の先生からの直接の情報私収集しておりませんので、詳細承知しておりませんが、これまでの取り組みということで申し上げさせていただきますと、やはりクルーズ船で入っていただける規模といいますと、大体6万トン級クラスまでは7メートル50のナナハン岩壁に接岸できるというようなお話を聞いておりますので、可能性は非常にあるな。何でそういうことを申し上げますかといいますと、やっぱり沖どめのクルーズ船というものはなかなか容易でないのだそうであります。やはり上陸していただいて、それで存分に地域を楽しんでもらうというのが必要であります。実際に滞在する時間が大体おおむね4時間から6時間ぐらいでしょうか、そのぐらいしか上陸されませんので、一般的には。船の中で宿泊をされるわけですから、陸で宿泊するということはないというふうにお聞きをしておりますので、そんな中で、さらには半径90キロ圏内は移動の可能性があるということで、実は新潟東港に停泊をされた場合については、この北側もエリアに入るよねという議論はこれまでもさせていただいております。下越の庭園街道めぐりですとかそういうところをメニュー出しをしていこうねというような議論は具体的にはさせてもらっていませんけれども、岩船港を活用した場合については、船規模とあとは受け入れ体制側ということで、これからの議論になるのかなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 市長も県とかそのような形で進めるとなったら一緒になって頑張っていたきたいというふうに思います。

それと、水産業のことについてお聞きします。驚ヶ巢会の会長も森林環境税で3,000万円ふえるのに微増しか林業基金がふえていないというのと同じようなことを私もちょっとお話しさせていただいたのですが、今回平成30年対比予算で78.4%水産関係の予算になっています。ですけれども、事前に課長のほうには東洋経済の記事を渡していて、きょうどういうふうに答弁してくれるのか楽しみにしているのですが、実は水産庁は70%、昨年対比の予算を70%ふやすということで、水産に関しては非常に力を入れているということと、それから70年来の漁業の改革ということの2つのあれでもって国は進めていこうというふうな考え方をしております。そう考えると、補正とかにかかわってくるのだろうかというふうなことも推測するのですが、この前の記事の中で、事前に渡した記事の中で、国の考え方、そして村上市としてそれに少しでも反映されるもの、そういうものについて農林水産課長教えていただきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大滝敏文君） 議員から昨日情報提供いただいた記事の中には、改正漁業法、この漁業法がこの12月の8日に国で改正されたというふうなことで、12月14日公布されて、そしてその法律の施行が公布の日から2年以内に制度で定めるというふうなことであります。まだ県からそういう細かな情報いただいているわけではないのでありますけれども、その改正の内容については新たな資源管理システムの導入ですとか漁獲割り当ての制度導入、強化制度見直しというふうなことで盛り込まれているようでございます。それで、これは全国の漁連からも今制度設計について要望がなされていると。いわゆる漁業者と一緒に意見を聞きながら制度設計をしていただくようにというふうなことで要望が出ているというふうに向っております。私ども村上市といたしましても、その国の動向を注視しながら対応してまいりたいというふう考えております。

それともう一点でございますけれども、約3,000億円、平成31年度の当初予算で約3,000億円の予算計上されているというふうなことでございます。こちらにつきましてなのでありますけれども、村上市といたしましても水産業競争力強化緊急事業ということで、村上地区漁協さん要望してございまして、これらはいわゆる漁業用の機械の導入ですとかそういった事業に対応するものでございますが、これら要望していると。

それからもう一つでございますけれども、こちら私ども市の予算にも今回計上させていただきましたけれども、水産多面的機能発揮対策ということで、こちら三面川鮭産漁協さんが今までも実施はしてきたのでありますけれども、河川の清掃ですとか環境整備、こちらの取り組みに対して国の事業が適用されるというふうなことでございますので、それもあわせて活用してまいりたいというふう考えております。

もう一点でございますけれども、漁業の担い手育成支援というふうなことで、新規漁業就業者総合支援事業、こちらにつきましても1名分国には要望、国と申しますか、予算を要望しているということで、それが仮にかなわない場合につきましても、市単独事業の支援策がございまして、こちらで対応してまいりたいというふう考えております。

以上でございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 決してその予算が少なかったから何とかというふうな言い方ではなくて、すごく岩船漁協の若手に対しては非常に恩恵があるような話もあるのです。実は、船新しく買うときのリースが全額個人が払わなければだめなのが国が半分見てくれるとか、それから今回も市長にお世話になったのでお礼言わなければだめだと思っているのですけれども、海水の引き込み、そして滅菌の装置、これに関しては県単で50%の事業だったのでありますけれども、20%つけ足ししてくれて70%を補助金で賄えるというようなことで、非常に助かっている面もありますので、是非ともこれからも漁業関係者の若手育成のためによろしくお願ひしたいというふうに思います。

次に、ちょっと観光課長に聞きたいのですが、LCCの運行によって、例えば月岡温泉、それから弥彦温泉、瀬波温泉と送迎のバスと言えればいいのだから走らせていますよね。それぞれの統計的な面というものは出ているのでしょうか、教えてください。

○議長（三田敏秋君） 観光課長。

○観光課長（竹内和広君） 実は、県の会議でも各地区の数値の公表はされておられません。教えてください。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） そうすれば、成果わからないということもあるけれども、村上市だけはとってあるからわかるのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 観光課長。

○観光課長（竹内和広君） 村上市は、1月末現在でございますが、117の方がご利用いただいております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） それから、さっき基本計画の搭載事業の中で埋没文化財センターの建設というものはどうなるのだからということ、これは学校教育課でいいのだから。これは、例えば廃校跡地とかを活用するというふうな答申なのだけれども、それで間違いないのですか。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（板垣敏幸君） はい、そのとおりでございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） それで、今生涯学習課長が答弁したので、もう一つ聞きたいのですけれども、前に全員協議会の際にスケートボード施設について追加補正で専決の話があったときに、私何度も言っているのですけれども、いま二つその施設は置いておいてもしょうがないから何とか日本海スケートボード協会ですか、その方ともう少し話し合いをきちんとやったほうがいいのではないかとこのように話したときに、次の日にやりますからと言った。その結果どうなりましたか。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（板垣敏幸君） 現在利用しております施設のほうにつきましては、新しい施設がオープンする4月いっぱいまでということで、それ以降については閉鎖をするというようなことで連盟さんのほうとお話をさせていただきました。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） ということは、今の施設はもうやめてしまうと。そして、やめるのだけれども、今の新しい施設は村上市が直営するというふうに4月1日からそうなるというふうに考えて、それで間違いないわけなのですか。

○議長（三田敏秋君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（板垣敏幸君） 新しいスケートパークにつきましては、市の直営ということで管理運営を行います。現在日本海スケートボーディング連盟さんが管理をして練習をやっている現在の旧市民会館、そちらのほうの施設につきましては今現在パークとか物がありますので、それらをそのままの状態にした中で一応とりあえずは一旦閉鎖をさせて利用はしないというようなことで、あそこを結局その物自体はスケートボーディング連盟さんの所有物になってございますので、それを一旦まず最終的には処分していただかないということになりますので、その辺のところについてはもう少し連盟さんのほうと協議をさせていただくことになろうかと思えます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 旧村上市のときにあの旧市民会館というものは危ないのだけれどもということで、いろいろもう取り壊さなければだめだということのある市長になった方がそのまま使わせたといういきさつがあるのです。そして、その後もしそれが使えなくなった場合にまたかわりにつくらなければだめだということが条件になっているために非常にあの旧市民会館は壊しにくいという部分があったのは、それはでは市長を含めてクリアしたというふうに考えていいわけですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今〔質問時間10分前の予告ブザーあり〕議員お話のありました件については、私承知しておりませんので、前段です、あれですけれども、当初から申し上げておきまして、今の施設が耐震化もされていない非常に危険な状態であるから一刻も早くそれは解消しなければならぬということ、これが大きな動機になっているわけでありまして、以前の経緯はちょっと承知しておりませんが、まさに市民の命を守ると同時にスポーツ熱、これをしっかりと応援をしていくという施設に変わるわけでありまして、危ないところにそのままいていただくわけにはいかないのだろうというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 最終的になるべくこじれたりしないようにきちんとしてもらいたいというふうに、私はちょっと心配な面もあるので、お願いしたいと思えます。

それと、先ほど地域おこし協力隊のことが出ましたが、集落支援員についてちょっとお聞きします。新潟日報さんが元旦から特集で「上を向いて歩こう」ということで特集組んでいまして、それで第一弾が粟島浦村、そして第二弾が阿賀町。阿賀町については、集落支援員を6名でもっている集落とか町内とかの問題をくみ上げて、それをある程度解決していくということで、私は集落支援員も非常に重要な、地元の人を採用するのですから重要な仕事を担っているのだなというふうに新潟日報を見て感じたのですが、荒川に1人女性の方がいるということなのですからけれども、これから進めていく気というのは、集落支援員をある程度進めていくような考え方というものは持っていないのでしょうか、ちょっとお聞きいたします。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（大滝 寿君） 集落支援員につきましては、今年度2名おります。荒川は昨年10月から、それからことし神林で4月1名ということで採用させていただいております。全国的に見ますと、集落支援員というものは地域からの採用が原則なのですけれども、地域外からの採用も1割ほどございます。兼業が基本的には、特別交付税の算定対象にはなるのですけれども、兼業をされますと350万円から兼業の方は40万円が限度となっております。私どもの考えとしましては、協働のまちづくりを進める上で、各まちづくり協議会もそうですし、それから地域おこし協力隊、それから集落支援員三つどもえで地域おこしという部分、協働のまちづくりを推進していく上で大変重要なものだと考えておりますが、今まだモデルケースとして採用させていただいております、その検証をしっかりと積み上げながら環境を整えていきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 最後に財政課長にちょっとお聞きします。例えば元議員とかがチラシを出すと。財政調整基金が5億円ぐらいになって大変だ、大変だと仮に書くとしたら、信用する人もいっぱいいるわけです、市民は、はっきり言って。だけれども、少なくなったには少なくなった理由があるわけでしょう。例えば去年は豪雪、それからいろいろな水害等があったわけです。そうすると、急なお金が必要だとなれば、村上市としては財政調整基金を切り崩さなければだめなわけですよ。去年の大雪で福井市財政調整基金50億円あったそうです。それが去年の豪雪だけで50億円全部使ったと。ゼロ円になりましたというのが新聞に出ていたときあったでしょう。必要なものは、財政調整基金とかから引き出してやらなければ、市民の生活を守らなければだめだと。去年の水害等、除雪費等〔質問時間5分前の予告ブザーあり〕どのぐらい財政調整基金とかのかかわりで必要だったのか、ちょっとその内容をわからない人がいっぱいいるので、その辺についてちょっと教えてください。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（田邊 覚君） そこは、特に最終的な豪雪への資金の投入によりまして財政調整基金減ったわけでございますけれども、当初15億円、平成30年、ことし、平成29年度末には10億円ほどあったものがその後の取り崩しによりまして特に豪雪関係で5億円から6億円の最終的には投入をいたしました。これは、当初想定していたよりも除雪の委託料自体は平成28年度の倍以上になったということもありまして、緊急的な対応ということで5億円、約5億円から6億円の間で投入をしております。その結果、15億円ありました基金が最終的に平成30年度の当初では5億4,000万円近くに減っております。いわゆる災害的なものへの投入だけでなく、いわゆる財源不足に充てる基金でございますので、その他いろんなものに充ててございますけれども、最終的にことしの初めには5億4,000万円になったわけでございますけれども、9月の第3回定例会でご議決をいただきましたように、ちょっと略した名前にさせていただきますが、合併の特例の基金につきましては、その役割を十分果たしたということで、この分の取り崩しをいたしまして財政調整基金に積み直し

をいたしまして、現在20億円弱の積み立てとなっているところでございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） それで、1つお聞きしたいのですが、例えば除雪費が全部で去年あたり15億円ぐらい例えばかかった場合に、国からの交付金で来るのはどのぐらいになるのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 財政課長。

○財政課長（田邊 覚君） 通常でありますといわゆる社交金、いわゆる地方交付税等で、はっきり具体的に示されているのが3億円プラスアルファなのですが、昨年場合は豪雪、全国的なものでございましたけれども、プラスアルファの2億円ほどがそれに足されておまして、だから平成29年度につきましては大体5億円ぐらいの国からの支援はあったものと思っておりますが、大体平均して3億円程度ではないかというふうに考えてございます。

○議長（三田敏秋君） 長谷川孝君。

○19番（長谷川 孝君） 幾ら大変だと言っても、やっぱりそういうお金は積んでおかなければ、万が一のときに積んでおかなければだめだと同時に、市長が言うように人口減少が減っているときに集中してその基金を切り崩してでもやらなければだめな事業というものもやっぱりあると思います。その辺に関して、やはりきちんと対応した中でちゃんと市民にわかるように。ただこの基金が減ったから大変だ、大変だと言ったら、では福井市なんかつぶれているかといったら、ゼロになってもつぶれなくて何かしらの対応したわけでしょう。だから、そういうものをきちんとやっぱり市民にわかるように村上市日よりでもいいですし、いろいろな形でやはり説明する責任はあると思うのですが、市長どのように考えますか。最後に答えてもらって終わります。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今長谷川議員からこのような機会をいただきまして、今市の財政状況についてのその仕組みをこれはインターネット中継もされておりますので、また会議録にも残りますので、ありがたかったというふうに思っております。その上で、我々がそここのところについての説明不足ではないかという指摘は真摯に受けとめさせていただきたいというふうに思っております。今回の状況、いろいろと平時であれば特段大きな動きはないのかもしれないかもしれませんが、例えば豪雪があったとか災害がいっぱいあったとか、そこで随分とお金を投入。見ればわかるわけです、傷んでいますから直しますので。そういうところの感覚の中でそういう情報に触れたときには、おお、おやおやというふうにはなるのだろうと思っておりますけれども、私もたびたびいろんな場面でそのお話はさせていただいておりますし、それで十分だということでは思っていないわけでありまして、機会を捉えてどういうふうな形の情報提供がいいのか、その辺については研究をさせていただきたいと思っております。いずれにしても、今行財政改革を進めている中なので、〔質問時間終了のブザーあり〕いずれにしても市民の皆様方に明らかにこの財政状況についてお示しをしていくという機会も今後は捉えていかなければならないというふうに考えております。

○19番（長谷川 孝君） 終わります。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで新政村上の代表質問を終わります。

午後2時まで休憩します。

午後 1時48分 休 憩

午後 1時59分 開 議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

保健医療課長の発言

○議長（三田敏秋君） ここで保健医療課長から発言を求められておりますので、これを許します。

保健医療課長。

○保健医療課長（信田和子君） 先ほどの新政村上の長谷川孝議員のほうからご質問がありましてお答えできませんでした村上総合病院における電子カルテについてでございますが、病院のほうに確認させていただいたところ、現在電子カルテではございませんが、新病院において導入予定であるということございましたので、よろしくお願いたします。

○議長（三田敏秋君） ご了承願います。

○議長（三田敏秋君） 次に、高志会の代表質問を許します。

1番、小杉武仁君。（拍手）

○1番（小杉武仁君） お疲れさまでございます。高志会の小杉武仁です。会派を代表いたしましてこれより質問させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは、平成31年度村上市施政方針と当初予算主要事業説明書の内容に沿って進めさせていただきたいというふうに思います。

初めに、平成31年度当初予算についてお伺いをいたします。新年度の予算編成に当たり、全体の35.2%、自主財源が全体の35.2%、依存財源が64.8%という比率構成になっておりますが、実態としては地方交付税に頼らなければならない依存体質があるのは現状というふうに捉えております。合併優遇措置の段階的な縮減の影響もありまして、より一層の厳しい財政運営を強いられておりますが、健全な財政運営や積極的な市政運営を進めている中、本市の目指すべき方向性として市長の打ち出した政策、ビジョンをもとに優先度の高い順から事業を積極的に推進しているものと理解しているところです。しかしながら、一昨年度並びに昨年度に続き、大型の予算となっているように思いますが、予算編成につきまして市長はどのような点に留意点を置いているのか、また力点を置いてこの予算編成、歳入歳出の予算編成を行ったのかをお伺いします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 平成29年度、平成30年度になります。ここの部分につきましては、やはりこれまで課題であった部分についてやっぱり何らかの方向性を打ち出していこうということで、少なからず投資的事業、これについては増加傾向にありました。ただ、これにつきましては、平成29年度に策定をしております財政の中期計画、ここの中で落とし込みをしながら、これまでの合併後10年間の推移を見きわめて今後の必要な事業というふうな実は積み上げをしたというのが実態であるというふうに思っております。でも、そうは言いましても、なかなか人口減少に歯どめがかからない状況であります。中、長期的に見れば、自主財源がこれからは減っていくところを踏まえて、さらにその地域の状態をしっかりと維持するためにはどういうふうな、メンテナンス経費がどんどんふえていくという傾向にあるわけでありますので、平成29年度、平成30年度やった事業を効果的に活用しながらということこれから行政運営を行っていくことになろうかというふうに思っております。そういう意味において、予算としては平成31年度顕著にあらわれたと思いますけれども、集中と選択ということで、その集中と選択をするに当たって全ての事務事業について聖域なき見直しを内部ではさせていただいたということであります。

○議長（三田敏秋君） 小杉武仁君。

○1番（小杉武仁君） ありがとうございます。今の答弁だと、持続可能な村上市をつくるために、市長がお考えになる本市の今の財政状況と将来予測について今率直に市長のお考えを伺いたと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 平成28年、たしか合併後8年経過して一本算定になったというふうに記憶しておりますけれども、その後比較的当初予定をしておった地方交付税の減少幅よりは少なかったかなという分析をさせていただいております。ただ、国の制度が変わっているわけでありませんで、これからは厳しくなっていく。したがって、出口ベースで考えていかないとこれだめだろうなど、入り口ベースで考えていくのと出口ベースで考えているのがマッチングしていかないとだめだというふうに思っておりますので、そういった財政運営を行って、その端緒な例としましては、起債事業に委ねなければならない部分いっぱいあるわけでありますけれども、償還額と起債を起こす額、これとのバランスを考えて償還額のほうがふえているというような状況が健全なのかなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉武仁君。

○1番（小杉武仁君） それでは、緊縮財政による影響も考えられるわけですが、今後の財政健全化における改善策、市長のお考えを伺いたいのですが、今後も財政が厳しくなることが予測される中において、自主財源の維持向上策、また新たな財源確保に向けた具体的な取り組み策はお持ちなのかどうか伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） これまでも職員側でいろいろな有利な財源確保、特定財源の確保、いわゆる国庫補助、県補助を含めてそういうものに取り組んできてもらっているものを見つけて出してくれてもらっています。それと、民間事業者ベースで行われているそういった連携事業みたいなものもいっぱいありますので、そういうところを活用するのもこれからの一つの視点なのだろうなというふうに思っております。

それと、内政側から申し上げますと、やはりこれ今回取り組みをさせていただきましたふるさと応援寄附金、これは非常に村上市にとって真水の寄附金をいただけるわけでありますので、そういう意味では市民に直接的に、また村上市というこの地域が将来にわたって持続していける、そういうまちであり続けるために使ってくださいという善意の寄附でありますので、こういうところが伸びていくと経済も動きますし、実際に行政運営としては非常に大きな自主財源につながっていくのかなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉武仁君。

○1番（小杉武仁君） ありがとうございます。自主財源の確保については、どこの自治体も厳しくなっていく状況にあらうかというふうに思います。ただ、私ども村上市においても、将来の村上市像をしっかりと展望して進めていっていただきたいというふうに思いますし、第2次総合計画も平成31年度は3期目に入ります。そこで、やはり進捗管理、事業性評価の検証をしっかりと行っていった中での事務事業の効率化も含めて図っていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、この施政方針の中身についてちょっと触れたいと思ひます。まず、いきいき元気な笑顔輝く、支え合ひのまちづくりについて、2ページからになりますけれども、市民の健康寿命の延伸に向けた対策や事業を実施するとあります。健康促進と医療体制の充実については、積極的な取り組みが求められるところではありますが、前者も質問しておりました。医学生の修学資金支援制度は進めているものの、結果はまだ先となってくるというふうに思ひます。そのまでの間医師不足の確保に当たっては、やっぱりこの市長のリーダーシップも大変重要なところとなつてまいりますので、何かお考えがあればお願ひします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） これまで毎年直接医師の配置につきましては新潟大学医学部ということになるわけでありますので、そここのところに積極的に働きかけをさせていただきました。その中で、県下全域、新潟保健医療圏は若干新潟県の中でもいいわけでありますけれども、それ以外の保健医療圏は非常に厳しい状況があります。そこに医師を配置をしていかなければならない。しかしながら、専門医制度が進んでいく中で、チームで取り組むという形になっているものですから、1人のドクターが1つの事案に対処するというのが非常に少なくなっているというふうな状況があります。その現状を強く訴えながら配置をしてもらおうということで、県のほうがこれまで取り組んでいただき

ました地域枠、それによる研修医の配置は、実は平成30年度当初は非常に伸びました。非常に伸びたわけでありますけれども、その伸び分が全部県内をフォローできていないという実態がありますので、そこのところは過疎、僻地部分の医療についてしっかり考えてくれということを県の福祉保健部並びに病院局とも連携をしながらやっていく。これがまず一番必要だと。あとは人、ドクターを、医学生を育てていくということなので、これは厚生労働省と今全国市長会で議論させていただいているところをしっかりと示されたロードマップをどこまで短縮できるのかということなのだろうというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉武仁君。

○1番（小杉武仁君） それでは、続いて予防医療においても、その健康寿命の観点からはさらなる充実が求められるところであると考えています。なかなか伸び悩んでいる健診率の向上についてどのようなお考えを持っておられるか、またこういうふうな形がベストなのだろうと、ここまでは達成したいという目標があれば伺います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 数値目標については、特段申し上げる状況に現時点ではないのかなというふうに思っております。一步でも二歩でも先に進めるというのが大前提。これまでも申し上げてきておりますが、やはり地域で地域コミュニティの中でいろんな形で健康体操だったり、そういうものに取り組んでいただくとやっぱり健康寿命は延びていく。これは、まさに明らかなわけでありますので、5地区にあります総合型のスポーツクラブと連携した保健事業、また介護も含めて、そういったところを取り組んで、幾つものメニューを今提供させていただいています。ですから、そういうところを一つ一つ積み上げていくということがまず一番地味ではありますが、近道なのかなというふうに思っておりますので、そこは積極的にこれからも取り組みを進めたいというふうに思っています。

○議長（三田敏秋君） 小杉武仁君。

○1番（小杉武仁君） それでは、続いて子育て環境の充実においては、こども課を新設したわけですが、保育行政全般において市民のニーズの高まりによるものだというふうに理解しています。長年課題の根底となっている保育士不足、この解消にも積極的に取り組める体制となったというふうに捉えてよろしいのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 組織としてやはり一番動きやすい、レスポンスのよい体制に持っていくというのは、これは我々の責務だというふうに思っております。それがイコール保育士の確保につながるかという、なかなかこれ厳しい状況があるというふうに思っております。これまでもいろいろな形で取り組みを進めさせてきております。その効果をあらわしている部分もあるとは思いますが、これからまた働き方改革でなお一層現場としては働き手に対して充実した環境提供をしな

がら、しかしながら保育行政というものは待ったなしの状況であると。相反するところをどう埋めていくのかという部分もありますし、そういった意味において、例えば抜本的にこれまでも内部の議論としてはさせていただいておりますけれども、保育園のあり方、そういうもの、例えば保育園の規模もそうでありまして、対象とするもの、全てが今未満児も含めてずっと対象になるというような状況がやっぱり求められるわけなのですけれども、それを選択できるような形にしていってほうがより効果的な組織づくりにつながるのではないかとということも少し議論を始めさせていただいておりますので、保育園の統廃合も当然含めてそれを視野に入れながらこれからしっかり議論をしていくというふうなところだというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉武仁君。

○1番（小杉武仁君） ありがとうございます。

続いて、ひと、まち、自然が調和する、美しい定住のまちづくりについて、4ページからになります。花角英世知事は、先ほども若干触れておりましたが、本県沖への洋上風力発電の誘致に向けた考えを表明いたしました。先般には、自然エネルギー島構想を打ち出して、県の調査では本県沖には洋上風力の適地が確認されておりまして、県では今後誘致に向けた環境整備に向けた積極的な取り組みを進めていくというふうな公表をされております。また、本市は、自然エネルギー政策において、洋上風力発電を導入、推進して進めてきたわけですけれども、調査の中で非常に多くのデータも含めて、いわば知識も含めて、見識も含めて得たものがあるかと思えます。再生可能エネルギーの潜在能力が確認されたことというふうに理解しておりますが、洋上風力の進歩、施行を見据えて本市でも県との協力態勢をさらに強めていく必要を感じるわけでありまして、本市としても先ほど協議会という話もありましたが、県のほうの。受け入れ体制であったりとか、また協力態勢であったりとかという部分を市長の所見という形でお伺いいたします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） まさにこれからの産業の創出だというふうに思っております。我が村上市におきましては、風況調査をあそこまでやらせていただきました。そういう意味では、業者が持っているデータにはなるわけでありまして、非常に有益なデータなのだろうなというふうに思っております。県におきましても、これまで新潟県沖合のポテンシャル調査終えておるわけでありまして、それとしっかりとリンクをさせながら、あとは1点、洋上風力発電の可能性、面として捉えたときの系統系の整備というものにつきましては、方向性がある程度デザインできるのだろうというふうに思っておりますけれども、それをつくり上げるに当たって、地元の市民の皆さん、住民の皆さんとのコンセンサスをどうとっていくか、また自然環境に対してどういうふうなアプローチをしていくのかというところも非常にこれは重要な問題提起につながったのではないかなというふうに思っておりますので、そんなところを踏まえて新潟県としっかりと今後研究会を通じて連携をしていきたい。さらには、村上市としては環境基本計画の今策定をリニューアルするわけでありま

すけれども、その際にこれまで推進委員会でやってきた部分についてをさらにそれをグレードアップする形で協議会組織に持っていきながら、またしっかりと新エネルギーという中の洋上風力についても議論をしていくというふうに予定をさせていただいております。

○議長（三田敏秋君） 小杉武仁君。

○1番（小杉武仁君） ありがとうございます。

次世代がより安心して暮らせるよう地域経済活性化にも資する再生可能エネルギーを中心とした新たなエネルギーへの転換施策を着実に進める社会を目指すべきと捉えておりますので、どうかご尽力をお願いしたいというふうに思います。

それでは、日本海沿岸東北自動車道について若干触れさせていただきます。沿線住民からは、早期全線開通が望まれて、事業着手後の工事の進捗においても注目されると同時に大きな期待もされております。全体で1,900億円の予算と理解しておりますけれども、今の進捗状況と本年度の事業費予算がどれぐらいになるかという予想も含めてお話しいただければと思いますけれども、よろしいですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 新潟県側、山形県側合わせて1,900億円で、新潟県側は1,600億円というふうに承知をしております。新潟県側で見ますと残り1,400億円ということで、膨大な経費になるわけがありますけれども、平成30年度当初予算で65億円、これ新潟県側ですけれども、全体では90億円ということでありました。今昨年半ば過ぎから積極的にアプローチをさせていただきながら、現在新潟県選出の塚田一郎参議院議員が国土交通副大臣でいらっしゃいます。非常に地元でいらっしゃいますので、比較的行きやすくなっているし、時間もとっていただきやすくなっているものですからお話をさせていただいております。現在この320キロを超える路線の中で88キロですかミッシングリンクがあるわけでありまして、そのうちのおおむね半分の40キロがこの我が村上市と山形県鶴岡市との県境部分でありますので、ここをつなぐことの重要性というものをしっかりと届けさせていただいております。予測をここで計数的なものを申し上げるのはちょっと差し控えさせていただきたいというふうに思っておりますけれども、国自体もこの日本海側の国土軸としての日沿道に対する評価、これは非常に高いというふうに思っております。先日もフォーラムを開催させていただいたときに、国関係者のほうからもやはり太平洋側については高速道路も複数ある、リニアもこれからできる、新幹線も通っている。ただ、日本海側につきましては、まだ高速道路が1つ完成形のものもないというふうなご意見もいただいており、まさにそうだなというふうに思いました。ですから、そのところをしっかりと伝えることによって予算がしっかりと動くというところに具体的につなげていきたいというふうに思っておりますので、さらに力を込めて加速をさせていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉武仁君。

○1番（小杉武仁君） 要望も数多く言っていただいております、市長には。また、塚田先生もお話出ましたけれども、ぜひとも地元の選出の斎藤洋明議員も一緒になって、一丸となって取り組んでいただきたいというふうに思います。

市長から以前にできたところから供用を開始したいという旨の発言がございました。今でもお変わりはありませんか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 実は、何でそういうお話を申し上げたかといいますと、例えば我が村上市には新潟、山形を連絡する新潟、山形南部連絡道という内陸からの接続の高規格道路もあるわけでありまして、その沿線の事業者非常にこれは最先端技術、ウエハースをつくっている会社でありますとかそういうものがありまして、その方が時折意見発表されたりするときに発言されるのですが、道路がとまると事業そのものもとまって、その系列の産業そのものがとまるというようなお話をされておりました。ですから、まずとめない構造が必要だ。これは、全部つながっているということなのです。それと、とめないものと同時にきちんとした時間に届くということが重要だというお話をされておりました。いろいろ聞きますと、この時間までで届けてくれれば契約になるのだけれども、その時間帯まで届けてくれということであれば、今の道路事情からいくと無理だというお話も現場ではあるわけです。ですから、それを解消するためには、やはりできたところから一刻も早く少しずつでも短縮をしていくということが必要だなという視点。それと、そこに暮らす人たちが目の前に使えるインフラがあるわけでありまして、それはもうできたところから使いましょうよという話。これごくごく自然な発想なのではないかなと思いますので、そういうふうな幾つかの面からそういう発言をさせてもらいました。今でもその気持ちに変わりありません。

○議長（三田敏秋君） 小杉武仁君。

○1番（小杉武仁君） ありがとうございます。ぜひそのような形で取り組んでいただきたいというふうに思いますけれども、山形県は今ほどお話があった鶴岡市ともしっかりと連携を図っていただいて早期開通に向けてご尽力を賜りたいというふうに思っております。

もう一点、あと村上駅前周辺まちづくり事業の推進についてなのですが、地域内にお暮らしになられる方々、ご商売なさっている方々からも活性化が図られるのか心配される声がちらほらともう聞こえてきました。というのも村上総合病院がもう工事が決まってその後どうなるのだろうと、利活用はどういうふうになるのだろうという声が随分と大きくなってきたように思えます。以前に実施したアンケートからも大分月日もたっておりますし、ニーズや要望も随分と変わってきたのかもしれない。そこで、再アンケートであったりとか、また市長が膝を交えて意見交換をしていただくとか、とにかく地域に寄り添った形の進め方をしていただきたいというふうに思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 駅周辺まちづくり計画のこの構想につきましては、既に公表されている部分があります。その当時やっぱりしっかりとその議論をされてその方向づけをしてきた大変な重要なものだと思っておりますので、それを踏襲をしながらということになるかと思えますけれども、それからやっぱり時間も経過をします。市を取り巻く環境も変化をしています。人口の動態も変化しています。いろんなどころを含めて、あるものをやっぱりきちんとその時代時代に合った形にやっぱり磨き上げていくということは必要だろうというふうに思っておりますので、今議員ご提案の新たなアンケートもしくは膝詰め議論というものは、可能性としては検討をさせていただきたいと思えますし、その駅前というものはこれまでもたびたび申し上げておりますけれども、やはりこのまちの歴史をつくってきた、これ駅の関係でいきますと直接城下町になるわけでありましてけれども、そこを形成してきたという形というものは、これは歴史であります、〔質問時間10分前の予告ブザーあり〕村上の。ですから、この歴史を踏まえた形のまちづくりというものは、今歴史的風致維持向上計画の認定をされている都市としては、やはりまちとして譲れない部分だろうというふうに思っておりますし、そのこの部分の顔になるのが駅の東口だというふうに思っておりますので、そんな思いでまちづくりは進めるべきだろうというふうに思っておりますので、またご地元のほうともその辺のところ踏まえてお話をさせていただきたいなということを私も望んでおります。

○議長（三田敏秋君） 小杉武仁君。

○1番（小杉武仁君） ありがとうございます。移転が決まってその後利活用がどうするのかという何年もかけて空白の時間ができるということも懸念されておりますので、ぜひとも前向きなご検討をお願いをしたいというふうに思います。

ちょっと時間もなくなってきたので、飛ばさせていただきますが、産業が創る地域の誇り、活力みなぎる賑わいのまちづくりについて、6ページからになります。この市内産業における人手不足大分深刻になってきているのかなというふうに思います。有効求人倍率は高いにもかかわらずなかなか人手不足がささやかれております。ハローワークに求人を出しても応募がないというような声が多く聞かれます。それぞれの事業所においても、雇用に対する企業努力であったりとか改善策を図っていただいたりということがありますけれども、例えば今の支援プログラムでさまざまな取り組みをしていただいております。その中でも私も経験ありますが、個人事業から法人に移行する場合非常に金銭的な部分も労力もかかってくるわけですが、それに加えて例えば就労者、仕事をされる方の専門的な要は資格が、例えば土木業者であったりとかというと、要は技術者が育たなければ一つの仕事が受注できないというような現状も生まれてきているそうです。その部分も含めて何か支援策を今後広めていく必要があるのではないかと思います、今の支援プログラムに加えて何か。今の支援プログラムプラスアルファこの地元の事業所さんの雇用がしやすいような環境をつくる施策を考えられないものかちょっとお伺いしたいというふうに思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 次のステップの検討材料だなというふうには実は思います。今産業支援プログラム、創業支援、起業支援という形でやってきて、これ金融機関、さらには商工会議所、商工会と連携しながらやってきて、その経営のマネジメントも含めて動かしてまず軌道に乗せましょうという話だというふうに思っております。それと並行してこの人材不足が一緒に併走しているものですから、今議員ご指摘の技術的な部分をやはりスキルアップしていかないとなかなか容易でない。競争にも勝っていけないというような状況が出てきているのだらうというふうに思っておりますので、そここのところにつきましてはどういった支援策がいいのかということについては、今後またことしは特に商工会議所、商工会と連携をする機会を多く設けていこうと思っておりますので、その中でいわゆる我々の苦手な分野でありますから、具体的に専門的な目で見てくださいというものをだよということをご提案をいただいて、それが行政として支援する施策として効果的なのかどうかも含めて検証をさせていただきたいというふうに思っております。まさにこれは、総力戦で人を確保していかないと。ことしでも年明けからずっと事業所回りをさせていただいて必ず言われるのが人手不足であります。ニーズはあるのだけれども、人が来てくれないというような状況。これは、まさに我が村上市にとっての人口減少含めてでありますけれども、大きな課題だなという捉え方をしております。

○議長（三田敏秋君） 小杉武仁君。

○1番（小杉武仁君） 今ほどお話しになったとおりだと思います。ぜひ現場の声を吸い上げるような形で意見を取り入れていただきたいというふうに思います。

もう一点、観光誘客活動について、本年度ディステーションキャンペーン非常に大きな期待を持っております。帰りは四季島のお客様に村上に足を運んでいただくというよりも、足をおろしていただくような努力が必要だとも感じておりますが、情報媒体だけに偏らず、私としてはぜひ市長にトップセールスを行っていただきたいというふうに思いますけれども、お考えあれば伺いたします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 露出度が〔質問時間5分前の予告ブザーあり〕上がっているので、非常にエージェントさん、バイヤーさん含めていろんな形でメニューづくりに取り組んでもらっています。昨年開催をされましたキックオフイベントにおきましても、旅行業者さんともお会いをさせていただいたりしております。そんな中で、私一人でやることには限度があるのだらうと思っておりますけれども、1人動くことによって大きな効果を得るという手法もあると思うのです。ですから、そんな形の中で取り組みをさせていただきたいというふうに思っております。いずれにしましても、これは新潟県と山形県の庄内エリアとのDCになるわけでありますので、県挙げて各自自治体とも連携をしながらしっかりやる。その中で、うちは下越圏域の中でその下越の持つ魅力、村上の持つ魅力をどんどん、どんどん前面に出していくということが必要だなと思っておりますので、今後引き

続き県と関係都市と連携をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉武仁君。

○1番（小杉武仁君） それでは、いのちと故郷を絆で守る、安全安心なまちづくりについて、時間もないので、恐らく最後になろうかと思えます。

村上市防災士が発足されるということですのでけれども、大変喜ばしく思っております。防災士には、非雇用者である方も多くいると思えますけれども、消防団協力事業所表示制度のように、事業所の防災士活動への一層の理解と協力を得る必要性も感じております。活動に協力してくれる事業所を顕彰することなども含めて視野に入れて、市としても導入・推進を図ってみてはと考えますけれども、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 総務課長。

○総務課長（佐藤憲昭君） おかげさまで現在156名の防災士がおりまして、これは3月17日に設立総会が開かれるということで、大変ありがたいと思っております。

今議員おっしゃったように、協力事業所表示制度ですか、それについても前向きに検討していきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉武仁君。

○1番（小杉武仁君） 防災士会のほうともぜひとも議論を深めていただいて、この防災士の皆さんが活動しやすいような環境をつくっていくのも必要かというふうに考えておりますので、ぜひとも検討させていただきたいというふうに思えます。

いずれにしても、ちょっと時間もなくなったので最後まで行きませんでしたけれども、まちづくりを進めていくには、村上市全体や身近な地域を将来どのようにしていきたいかということをやっぱり市民も一体となって考えていく時期に来ていると思えますので、またその中でも市長のリーダーシップに期待しておりますので、頑張ってくださいというふうに思えます。

これで私の代表質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで高志会の代表質問を終わります。

次に、日本共産党の代表質問を許します。

5番、稲葉久美子さん。

○5番（稲葉久美子君） 日本共産党の稲葉です。会派を代表して質問させていただきます。初めてですので、失敗したら済みません。申しわけありませんが、よろしく願いいたします。

私は、平成31年度の村上市施政方針と当初予算の中から本当に暮らしに希望の持てる予算になっているのかという立場から質問させていただきます。

1月18日、私たち議員と村上高校1年生との懇談する機会がありました。私は、参加していないところ3カ所あるわけですが、県立高校と中等教育学校との懇談もあり、それぞれが工夫を凝らした懇談となって有意義な機会となりました。私が参加した村上高校1年生との懇談の中で、村上

がどんなところか、学業や仕事で都会に行っても将来村上に戻って来てくれますかというような内容で話し合いました。その中で、女の子だったのですが、村上は本当に自然が多くて住みやすい、戻ってきたいというふうに言ってくれたのです。それともう一人、朝日地域から通学されている方だったのですが、朝日のほうに電車を走らせてもらえないだろうかというような要望が出されました。私は、一瞬ええと思うような感じになったのですが、本当にこの人は夢を持っているのだなというふうに感じました。何とかして村上に戻ってきたい、そういう思いもあるのだということその言葉の中から感じたところですが、男の子の中で村上ではゲームができないから帰ってこないよとさっさと言われましたし、またまだ1年生だからはっきりわからないけれども、機会があれば戻ってきたいというふうな返事も戻ってまいりました。その機会があればというのは、まだ1年生ですからはっきりわからないという状態ももちろんあると思います。それが2年、3年となれば進学先も決まり、就職も決まりということになるとその段階で考えていかなければならないと思うことなのですが、最近高校3年生のもう学校行かなくてもよくなった子どもたち、卒業式を待っているような子どもたちなのですが、その人たちに聞いてみました。これからどこ行くのと言ったら、やっぱり東京なのだそうです。大学です。そして、その後村上へ帰って来てくれるのかなというふうに聞いたら、できないねとさっさと言われて、一瞬ちょっとがっかりしたのです。その男の子たち5人いたのですけれども、1人は黙っているところを見ると、ああ、この人は戻って来てくれるのかな、本当に戻ってこない人ははっきり言うのだなというふうにそのとき感じたわけです。本当にやっぱり3年生ともなると現実を知ってきているというふうにも思いました。

そんな話をしながら、我が家でも共通することなのですが、今若い人たちが本当に村上に住んでいて希望の持てる生活になっていっているのかどうか。やっぱり考えさせられるところ多くあると思います。市長の話でも課題だということいろいろ出されておりますけれども、この先20年後を考えたときに、私たち今70代で団塊の世代と言われて、どこへ行っても私たちと同じような年代の人が多くいます。私たちが20年後となると90代なのですけれども、団塊のジュニア、今40代、50代になろうとしているような人たちが今度は高齢者になっていくわけです、65歳以上。それと、今のジュニアたちは、意外と子育てしていない方が、逆に言うと独身の方が多かったりというような状況がありまして、その後のジュニアが育っていないというような部分あります。それも含めて今の団塊のジュニアの世代以降になると子どもたちがずっと何か減っているのです。そんな状況を見まして、今職場のほうで人手が欲しいということで探すのですが、なかなか見つからない。そういう状態になってきているのではないかと思います。本当に今の社会、国策で、そしてまた行政でも一生懸命頑張りながらこういう社会つくってきているわけですが、本当に市民のためにサービスのできるような、サービスが行き届いているような状況になっているのか。働く人たちの生活が豊かになっているのかというようなことで考えてみますと、特に公務労働者においては非正規雇用をやめて正規を希望するようなパート、臨時有期労働者を優先的に雇い入れるような努力をする必要があ

るのではないかとと思いますが、そこら辺について伺いたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 問題意識といたしましては、議員と同様の問題意識を持っているのだなというところをお話をお聞きをさせていただきながら感じておりました。ただ、その中で、私も市内の高校生の諸君と率直に議論をさせていただく機会を設けさせていただいておりますけれども、まさに今の若い子どもたちの感覚というのはこういうことなのだなというのを強く感じるがあります。その中で、やはり今議員からお話のありました部分については、彼ら、例えば高校1年生というのはその時点での感覚でやっぱり物を話されているのだろうなど。少しそれが時間を経過して高校の3年生になって受験であったり就職であったり、その先の人生に目的を見出したところで選択をしていくということで、少し絞り込みが始まってくるということなのだろうというふうに思っております。そんな中で、自分の将来設計をしたときに、そこで高等教育を受けた後どういうふうな道に行く、どういうふうな生き方をしていくのかといったときにどこを選択していくのか、村上に戻ってくるのか、また新たな土地を選択していくのかということで、やはり日々変化はするのだろうと思います。そんな中で1点揺るぎないというのは、やっぱりここで生まれ育って、ここで教育を受けてきたというふるさとの意識なのだろうというふうに思っておりますから、そのところをまずしっかりと意識をしていただくような形というのはまず一つのやり方としてあるのかなということで、私は高校生、またほかの世代の皆さんと話すときにもそんなことをさせていただいております。例えばそういうものの1つでも自分の中で誇りにつながれば、やっぱりそれはもう永遠の記憶になっていくのだろうと思います。そこをやっぱりきっかけにしていくというのがまず必要だなというふうに思っておりますし、また各世代間の状況のお話も少しあったわけでありまして、それはもう明らかな現実としての人口減少の社会があるよということ、それと人口の世代間の構成が変わっていくよということは、もう明らかなデータになっているわけでありまして、そのところをどういうふうな形で捉えて行政運営をしていくのかということに今苦心をさせていただいております。産業分野でもどんどん、どんどんいろんな技術革新、ソサエティ5.0という形の中で進んでいく、また新たな産業革命という形の中でどんどん進んでいくわけでありまして、それにしっかりとタイムラグを生じさせないように呼応しながらこの村上のこの広大な面積の中でどういうふうな行政サービスを行っていくのかということをしっかり真剣に議論をしていくということがこれからの我々の責務かなというふうに今思っておるところであります。

○議長（三田敏秋君） 稲葉久美子さん。

○5番（稲葉久美子君） 生活できる賃金という一つのことで絞っていきたいと思いますが、今県内の最低賃金幾らかというのをご存じだと思いますが、村上市というか県内の地域を見ましても、この地域については決して高い賃金ではないというふうに地域的に思っております。中小企業や地場産業、商店街などを視野に入れた振興や支援策行われているわけですが、特に賃金を上げるという

施策についてはどんなふうを考えていらっしゃるのか、そこらについて伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 先ほどの議員からのご指摘の部分もそうだったのですけれども、直接お答えをしていなかったの申しわけなかったのですが、非正規雇用と正規雇用という形にシフトをしてその雇用の場所をふやしてそれを今市が扱っている部分の非正規を新規の雇用枠にすれば就職ができるのではないですかというお話も含めてあったと思います。それと、賃金の問題も連動していると思いますけれども、そういう形で、一つ一つの雇用現場におけるそういうものの改革をしていくというのは大切であるわけでありましてけれども、例えば一つの議論としては、市の臨時職員の賃金単価を上げれば連動して上がってしまっていて、今度関係事業者が大変だというようなことも現実には起きるわけです。ですから、そういうことも含めて考えたときに、雇用のマッチングも含めてしっかりと考えていかなければならないというふうに思っております。今最賃の部分については、幾らというのを私承知しておりませんので、お答えできません。

○議長（三田敏秋君） 稲葉久美子さん。

○5番（稲葉久美子君） 今市長のお答えの中で、市の職員の給料上げたら地域の商店の人たちが困るのではないかというようなことをおっしゃられましたけれども……

〔「臨時職員のことだよ」と呼ぶ者あり〕

○5番（稲葉久美子君） 中小企業は、地場産業と商店街の人たちですが、その地域での振興支援策の中で給料を上げてもいい、上げて、それからそのほかについては設備投資とかいろんなものに使っていいというような援助の仕方とはないのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 地域経済振興課長。

○地域経済振興課長（川崎光一君） 賃金に関する補助というものはございませんが、産業支援プログラムにおきまして設備経費等の支援も新年度においてはできるような形で今改正しております。

○議長（三田敏秋君） 稲葉久美子さん。

○5番（稲葉久美子君） 済みません、ちょっと聞き取れなかったのですけれども、賃金を上げるということについてはないということですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○議長（三田敏秋君） 稲葉久美子さん。

○5番（稲葉久美子君） 私もはっきりちょっとわからないのですけれども、賃金を3%上げたら設備投資なり何々に使ってもいいという補助制があったというふうに何かで聞いたことあるのです。でも、私も確実に調べていないのでわからないのですけれども、それについては今後私も勉強していきたいと思っております。

それから、就職は希望する方で先ほど出ていましたけれども、Uターンについて、やはり村上山か

ら出て行って都会で結婚して家族で帰ってきたというような方が村上で再就職するときに、やはり村上で働くことができないというふうに言われるのです。それだけ賃金が低いのかなというふうに思うわけですが、そこら辺については我慢するしかないのでしょうか。そこら辺についてどうでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 今いらっしゃって生活しているところで一旦例えば端的にわかる例で言いますと、定年退職を迎えて第2の人生としてふるさとで過ごしたいというようなときに、まだまだ働きたいのだけれども、その働き口がないということでUターンの選択肢がないのか、自分のマッチングした職がなければ帰ってきにくいのか、その辺のところは今よく言われているミスマッチの部分なのだろうというふうに思うのです。それは、現役世代も一緒だというふうに思っております。ですから、そういうところしっかりと分析を今させていただいているわけですがけれども、比較的この職業であれば嫌だけれども、この職業だというようなものをストレートにお話をされている方もいらっしゃいますし、例えばそれを一つ経験してもらおうと、ああ、今これほどAIも含めてICT化が進んでいる中で、全然以前のイメージとは違うねと言っただけの例えば現業分野のそういう作業を経験してもらおう方もいらっしゃいます。ですから、そのところは、うちがどれだけメニューを提出できるかということであります。村上にある産業、今ある産業は、これが全てであります。そこには今後の可能性として、例えば新たな企業を誘致する、新たな産業を誘致するということがありますけれども、これは今言っただけで今すぐありません、いろんな形でアプローチはしていますけれども。ですから、中山間地、僻地における例えば自動運転をいろんな形で連携できないかということで国交省のモデル事業に手を挙げたりいろんなことをやっているわけです。ですから、その中でこれからどんどん、どんどん進むICTの分野も含めて検証をしていくということが必要なのだろうというふうに思っております。

また、先ほど申しわけありません、市の職員の給料を上げればよそが困るという話ではなくて、臨時職員の賃金単価を最賃に合わせてうちのほう上げさせていただいております。それを極端な形でどんどん、どんどんやってしまうと全体のバランスが、市場経済のバランスが市の中で崩れるというお話も私も直接聞いているものですから、その辺はやはりこうすればこうなるよという画一的なものではなくて、いろんなものが絡むところを我々はそのデリケートな部分を真剣に議論した上で選択をしていかなければならないなというふうに思っております。ただ、ミスマッチの部分は、多分共有をさせていただいているというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 稲葉久美子さん。

○5番（稲葉久美子君） Uターンしてきた方で特に賃金の問題で問題にする方は、やはり技術者が多いのです。最近私聞いた方は、整備士の技術を持っていて村上で何とか仕事したいのだけれどもというようなことと言われてまして、紹介したくてもちょっと紹介できない状態、言いましたら、そ

れはちょっと無理だなというようなことで、近くのまちへ行くというようなこと聞きましたものから、やっぱり仕事があってもなかなか就職できないという状況がやっぱりあるということ現実であったわけです。そこら辺について、本当に村上で落ちついていられたらという今度まず考えました。

もう一つは、やはり町なかが元気でなければ若い人たちが元氣になれないというようなことから言いますと、やっぱり町なか歩いていても本当に人口が少なくなっているなというのを感じるということが一番弱いのではないかなというふうに思うのですが、例えば瀬波温泉がにぎやかでないという状況、それとあわせて今スケートパークができるわけですが、ほとんど外見きれいになっていますけれども、本当に地元の人たちが行き交う場所になっているかどうかについて、私はスケートパーク1つをとっていてもやはり地元の人たちが動けるような状況になっている、動くというのか、例えば瀬波温泉行く、それからスケートパークへ行く、どんなところか見るということすらもできない雰囲気になっているのではないかと思うのですけれども、そこら辺についてはどうでしょうか。宣伝が足りないように思うのですが、どうでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 市民の皆さんにも足を運んでいただきたいなというふうに思っておりますけれども、まず瀬波温泉は市民の皆さんにも愛していただくと同時にどんどん、どんどん交流人口でよそから来てもらったほうが経済効果としては派出しますので、そここのところのプロモーションをしっかりとやっていくというのがまず一番だというふうに思っております。温泉組合の皆さんも協議会の皆さんもいろいろな形でお話をさせていただくときに、以前は、済みません、ちょっと数字不確かで申しわけないのですけれども、45万人超ぐらいの多分来場者、瀬波温泉だったと思いますけれども、今40万人を切って35万人も切るぐらいのかな。済みません。そういうふうな形でこの前ちょっとお話を聞きをしました。そうすると、その部分で各自で創出しているわけです。まずそこを戻しましょうという議論が優先されるのだらうというふうに思います。今スケートパークにつきましても、あれは国内最大級の屋内型のスケートボードの施設で、日本選手権はもとより、国際基準の大会もできるわけでありますから、またさらにここでも交流人口をどんどん、どんどんふやしていくということもしっかり取り組みをしたい。ただ、あれは市の施設でありますので、市民の皆さんも使えるようにいろんな形で機械ジムでありますとかスラックラインだとかボルダリングとかそういうものも使えるようなものにしていくということになっているわけです。ですから、何をまずターゲットにしながらやっていくのかということも少し選択をしていかなければならない。ですから、うちのほうでは、今教育委員会で進めてもらっていますけれども、来年オリンピックあるわけですから、まずそれをモチベーションとしてまず高く持ち上げてそこに行きましょうと。さらには、その後持続的にどういうふうな形でそれを使いこなしていくかという話になります。瀬波温泉も同様にそういう形、ことしのディスティネーションキャンペーンをキックオフさせながら、

それを一旦上げたものを下げないように、例えばインバウンド観光誘客についてもやっていきましょうとかという議論をしているわけです。

議員やはり町なかになにぎわいが無い、元気がないというふうにおっしゃいますけれども、私は全くそう思っていないくて、今3月1日から人形さま始まりますけれども、いずれはやはり町歩きをして町屋を楽しむというような環境の例えばこういうまちではなかったのだと思います。それがここ20年計画して非常にいろんなところから来ていただけるまちになっています。ですから、そこはまさに町屋の力で商人会の皆さんの力をメインにしながらかこまでなし遂げたわけでありますから、それをどんどん、どんどんやっぱり磨き上げていくというところをみんなでやっていく。あわせて村上は、いろんなところに歴史的風致維持向上計画に規定をさせていただきました。いろんなそういう財産があるわけですから、それをやはり点でなくて、点、線、面として捉えていって、それを下越における村上の力に変えていくということなのだろうと思います。私自身は、全然にぎやかさが失われてきているねという感じは受けておりません。

○議長（三田敏秋君） 稲葉久美子さん。

○5番（稲葉久美子君） 業者の皆さんそれぞれ担当のする方が一生懸命やって交流人口をふやしている。にぎやかにいるという状況は、今の話からもよくわかっています。私もわかっているつもりなのですが、やっぱり地元の人たち、私たちのうちのご近所さんたちが本当にスケートパークってどんなところだろうというのを本当にスケートをやっている、そんなイメージを持っている方もいるわけです。だから、私たちには関係ないよねというような形になっているものですから、やっぱりそういう状況ではうまくない。確かに使う人たちにしてみれば、それを希望する人たちが使えばいいということももちろんあるのですが、誰でも行けるといような立場、特に子どもたちや若い人たちが行くとなると、本当に簡単に言うとまちのど真ん中であつたらみんな自転車や何かで軽く行けるのだけれども、瀬波温泉になったらちょっと何回バス通っているのというところから始まるような状況なわけですから、そういう意味で私たちの地元の人たちが本当に瀬波温泉歩いて行ける地域、スケートパークも歩いて、自転車で行ける地域、そんな感じの雰囲気やっぱり私たちにはつかめていないという状況があるわけです。だから、ほかの地域から村上へ訪れてくれる人ももちろんいいのですが、私たちがほかの地域に出かけて行ったときに、その人たちの地元がどんなふうになっているかなというのがやっぱりすごく気になります。やっぱりご近所さんたちが歩いている、買い物している、そういう姿を見て私たちも安心するところがあるのではないかというふうに〔質問時間10分前の予告ブザーあり〕思うので、そこら辺からして地元の人たちが本当に動けるようなそういう元気さというのが必要ではないかなというふうに思うのですけれども、欲張りでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 稲葉議員のご地元のエリアがどうい状況なのかというもの私承知しておりませんので、申しわけないですけれども、今のご議論を聞いていますと、やはり何でもかんでも足

で歩いて行って行ける場所に何でもあればいいというような議論にちょっと聞こえたのですけれども、そうでなくて、残念ながら村上市は1,174平方キロというところに幾つかの点在する連たんした市街地を形成をしているというまちであります。これを全部必要なものを1カ所に集めて全員集まれと言えば、それはコンパクトで非常に効率のいい都市になります。でも、それは現実問題としてありません。少なくとも除雪の路線だけでも622キロあるわけでありますから、それをこの冬みんなで頑張って除雪をしていくというようなそういうまちです。そこのそれぞれにあるコミュニティをしっかりと維持させるために、人口は減少していくのだけれども、維持させるためにやはり生まれ育ったふるさとでしっかりと生活をできるような環境づくりということで、例えば今後でありますけれども、自動運転の活用でありますとか買い物困難者に対する支援策であるとか、これは買い物に行く、買い物ができる場所がそっちに行くというようないろんな方策があります。今地域おこし協力隊頑張ってもらっていて、非常に喜んでもらっています。ですから、そういう形で、どういうものが今必要で、どういうものが望まれているのかというところもしっかりと検証してやっぱりやっけていく。この我々の大切な自然豊かな村上市をこのまま維持をさせながら生活環境を少しでも向上させていくということに取り組んでいきたいと私は思っております。

○議長（三田敏秋君） 稲葉久美子さん。

○5番（稲葉久美子君） 決して私は足を引っ張っているつもりはありませんけれども、前の水族館、スケート場あったときのイメージがあるものですから、やっぱり地元の人たちはそれを心配します。だから、そういう意味で本当に私たち地元の人たちが通えるような施設にしていかなければならない、努力しなければならないのではないかなというふうに思っているところです。ちょっとの時間でも足を運べるような場所、そんなところで考えていけたらというふうに思っております。

次の質問ですが、福祉政策の一部ですが、介護保険料のことについてお伺いいたします。3年ごとに保険料が値上げされているわけですが、それは最初から予定されたことですが、ことし国からの助成が少なくなっておりますけれども、大体どんな理由なのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 介護高齢課長。

○介護高齢課長（小田正浩君） 新年度につきましては、あくまでも国とかは法律で決まった額を出すわけですが、これら給付額そのものが見込みで予算を少なくしておりますので、国からの予算も当然その割合で来ますので、少なくなっております。

○議長（三田敏秋君） 稲葉久美子さん。

○5番（稲葉久美子君） 保険料を払う立場からすると、高齢者はもちろんふえているのですが、年金は下がっている。だんだん払いにくくなっている状況というものはあるわけですが、でも、保険料が上がっているということで利用料ももちろん上がってきておりますので、行きたくても利用料がかかるからということで遠慮する、そんな傾向も中にはあるということで聞いておりますので、保険料の軽減措置、減免措置についてはどんなふうになっているのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 介護高齢課長。

○介護高齢課長（小田正浩君） 基本的に介護利用料につきましては1割負担になっておりまして、あと所得によりまして2割、3割というふうになっております。軽減的には、施設に入った場合は食事とかそういう生活面での助成はありますけれども、特に所得のどうのこうのということでこれといった軽減はございません。

○議長（三田敏秋君） 稲葉久美子さん。

○5番（稲葉久美子君） 年金から言いますと、国民年金の場合だともう恒常的に低い収入ということになっておりますし、その中でまた〔質問時間5分前の予告ブザーあり〕負担料を払ってとか利用料を払って通うというのなかなか大変な状況になっているというふうに思います。国の制度としても、そういう低所得者に対しての恒常的な軽減措置要望していけたらと思いますが、どうでしょう。

○議長（三田敏秋君） 介護高齢課長。

○介護高齢課長（小田正浩君） それにつきましては、市長会とか等で要望はしてございます。

○議長（三田敏秋君） 稲葉久美子さん。

○5番（稲葉久美子君） ありがとうございます。

以上で終わらせていただきます。

○議長（三田敏秋君） これで日本共産党の代表質問を終わります。

午後3時15分まで休憩します。

午後 3時03分 休 憩

午後 3時15分 開 議

○議長（三田敏秋君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

○議長（三田敏秋君） 最後に、市政クラブの代表質問を許します。

12番、小杉和也君。（拍手）

○12番（小杉和也君） 市政クラブの小杉和也です。市政クラブを代表しまして代表質問させていただきます。私は、施政方針を中心に質問したいと思います。あとランダムに行きたいと思っておりますので、ページ順ではございませんので、皆さんよろしく願いいたします。

昨年の施政方針では、好評いただいている住宅リフォーム事業補助金、これは清流会の平山議員も触れましたけれども、住宅リフォーム事業補助金につきましては、4月からすぐに事業着手できるように制度設計を行い、市内経済の活性化を図ってまいりますとの記載がございました。ことしの施政方針にはそのような記述がなくて、当初予算にもものっていませんでした。しかし、平成30年度一般会計補正予算に昨年と同じ予算額6,000万円が計上され、繰越明許費にもものっておりました。

これは、どういう経緯で施政方針に載らなかったのか市長にお伺いしたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 平成30年度事業として打つときに、年度初め速やかにスタートできるようにということで、その前の年の12月に債務負担行為の補正のご議決をいただいておりますという状況を踏まえて、今回全然それと形が違うのですけれども、その中で住宅リフォームの役割、これがおおむねその任務を果たしたのではないかという議論をずっとこの間させていただきました。そういった経緯を踏まえて、昨年12月の債務負担行為補正は見送ったという形であります。それを見送るということは、当初予算に盛らないよという仕掛けになるわけでありまして、その後やはり消費税の今回改正があるわけでありまして、そういったもの、それと住宅リフォーム部分のその任務として、これは経済対策という形で打ってきたわけでありまして、住環境整備というところの部分の必要性、さらには年度変わりにおける経済の停滞を招かないというようなこと、それを総合的に勘案して関係機関からのご要望もいただきながら、その中でではそれは打とうというふうな形に結論づけました。打つならば年度始まってすぐ着手できるようにということで今年度予算の補正でというふうな形で対応させていただいた。それが経緯であります。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） では、課長にちょっとお伺いしますが、平成29年度と平成30年度交付決定件数と総事業費わかりましたら教えていただきたいと思います。

○議長（三田敏秋君） 地域経済振興課長。

○地域経済振興課長（川崎光一君） 平成29年度でございますが、交付決定数が348件、総事業費で4億8,000万円でございます。平成30年度でございますが、交付決定数が367件、総事業費で5億7,000万円でございます。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 今の数字を聞きましたら、交付決定数も19伸びております。驚くべきことは、総事業費が約9,000万円近く伸びています。平成29年と平成30年、制度設計をされていろいろな意見をいろんなところから聞いて使いやすいようにと多分変えてくださったのだと思います。補助対象の工事費が20万円から25万円。平成29年度は20万円だったのが平成30年度25万円まで引き上げて、ただ補助率を30%、平成29年度30%から平成30年度20%にしたと。それで総事業費が膨らんだのだろうなと思っております。非常に効果のある事業ではないかと私は思っております。春先の仕事とは非常に少ないですから、やはりそういった制度設計はいいのかなと思っております。村上市の景況調査報告にも緩やかに持ち直しているが先行きは不透明感をぬぐえずというのが出ております。やはり徐々には持ち直しているのだけれども、まだまだ不透明だよというようなときには、やはり経済対策というものは非常に重要なことなのだろうなと思っております。

もう一度課長に伺いますが、今補正予算これから審議入りますけれども、補正予算が審議されま

したらその後のタイムスケジュールというものは大体頭の中にあるのでしょうか、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 地域経済振興課長。

○地域経済振興課長（川崎光一君） 3月議決をいただきましたら直ちに広報を全戸配布、お知らせ版を全戸配布させていただいて周知を図りまして、4月中ごろ、上旬申請を受け付けしまして、交付決定につきましては5月中ごろを予定しております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） ちょっとその辺が残念です。平成30年度は、非常に募集が3月で交付決定も3月、平成29年度ですか、前倒ししてやったので、非常に着工が早かったということなので、今ちょっとお伺いすると、その前のときよりもちょっと遅いなという感覚はありますので、ただしっかりと広報していただいて、そういうものがあるのだよというPRをぜひしていただければと思います。

では、施政方針のほうからちょっと質問させていただきたいと思いますが、2ページに子育て支援の部分ですけれども、休日などに親子で遊べる場所、閉校利用をすることで検討しているというようにこの記載がございます。これを施政方針に記載した考えを市長にお伺いいたします。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） これまでもさんざん議論をさせていただきましたけれども、去年はいろいろな団体、特にいわふね青年会議所の皆さんから子どもの遊び場をつくっていただきたいというようなことの4,700名を超える方々のアンケートを添えていただきました。まさに今子育て世代が必要と感じている部分なのだろうなということで、これまで統廃合を進めていった閉校後の学校利用については、いろんな形で議論していただいております。その中で一番拠点性を有効に活用できる部分というのはそこなのではなかろうかということで具体的に議論をさせていただいているというところであります。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 想定としてはどんなお考えでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 現在廃校舎利活用検討委員会で神納東小学校を子育て施設の拠点になるようにということで検討しているところでございます。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 前に一般質問でも言わせていただいたのですが、子育て支援といいますのは、健常者だけではなくて障がい者の方も子育て支援、やっぱり遊ばせる場所というものは非常に悩みだったりもするので、その辺は市長どんなお考えですか、障がい者の子育て支援の部分。

○議長（三田敏秋君） 市長。

- 市長（高橋邦芳君） 当然そういうことは想定をしながらということで承知をしております。
- 議長（三田敏秋君） 小杉和也君。
- 12番（小杉和也君） では、教育長いかがですか。
- 議長（三田敏秋君） 教育長。
- 教育長（遠藤友春君） 将来的には、ことばとこころの相談室、そのような部署も移して相談体制も含めて充実させていかなければならないと思っております。当然障がいのある子どもたちのための遊び場等も含めてうまく利用していつてもらいたいという願いは持っているところでございます。
- 議長（三田敏秋君） 小杉和也君。
- 12番（小杉和也君） 3ページに「ばすのーと」、今年度から新しく始めた取り組みでございますが、まだ検証とかその辺はなっていないのかもしれませんが、現在のところまで来た評判というのでしょうか、来年度もこういうふうに行うよというふう施政方針に盛り込んでありますので、多分成果があつていいから来年度もやろうと、継続的にやろうというような考え方だと思うのですけれども、その辺はいかがでしょう。
- 議長（三田敏秋君） 福祉課長。
- 福祉課長（山田和浩君） 確かに細かな検証はまだしていない部分はあります。ですが、赤い「ばすのーと」、これは600部つくって母子手帳と一緒に配布させていただいているという状況でありますし、青い「ばすのーと」につきましては、各事業所なども通じて必要な方に配布させていただいている。その中では、非常に評判がいいものというふうに認識しておりますし、またこれをやっばり活用してもらうのが大切なわけですので、事業所初め、また今ですと保育園のほうの先生方なんかにも使い方をお話ししたりして活用を進めているという状況でございます。これは、当然今後もやっていきたいということで書かせていただきました。
- 議長（三田敏秋君） 小杉和也君。
- 12番（小杉和也君） あとここにペアレントトレーニングの継続とありますが、ペアレントトレーニングについても継続というのは、ある程度成果が上がっているからだろうと思いますが、この辺についてはいかがでしょうか。
- 議長（三田敏秋君） 福祉課長。
- 福祉課長（山田和浩君） こちらは、平成30年度、福祉課としては2回ほどさせていただきました。ただ、生涯学習課のほうでも同様の事業をやっていたということもありますので、平成31年度につきましてはそれを一緒に合わせた格好で4回やるということで考えております。参加者各回10名ということで参加募集しましたけれども、なかなか満たない部分はありますが、やはり必要な事業だと。また、参加した方のアンケートをとらせていただきましたけれども、参考になったという意見も結構ございましたので、平成31年度継続してさせていただくということで考えております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） では、4ページ、水道局長にお伺いいたします。こちらのほうに簡易水道事業を2020年4月から地方公営企業会計への移行に向けた作業を進めるとありますが、どのようなことで進めていかれるのでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 水道局長。

○水道局長（川村甚一君） これまでまず簡易水道につきましては、わかりやすく申し上げますと、上水道事業と同じような会計にしていくための準備ということでございまして、それぞれの試算、これを台帳化いたします。財務諸表を作成していく関係で貸借対照表等をつくっていかねばなりませんので、資産あるいは負債、そういったものを明らかにしていくということでございますし、それに伴います諸表の例規、これらを整備していくと。大まかに申し上げますとそのようなものでございます。

失礼いたしました。申しわけありません。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） なかなか企業会計というものは、皆さんもなかなか慣れておられないと思うので、その辺のところ職員の方を中心にじっくりとつくり込んでいただいて、担当の方がかわってもすんなりと移行できるような形で取り組んでもらいたいと思いますが、いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 水道局長。

○水道局長（川村甚一君） 議員おっしゃるとおりでございまして、これは全く公会計とは違っていて、あるいはまた企業会計とも若干違ってございます。地方公営企業会計、特殊なものでございますので、一昨年、3年ほど前から職員を研修に派遣いたしましたりあるいは内部で勉強、講習を行ったりしておりますが、スムーズな移行ができますように職員の体制が一番大事かと思っております。おっしゃるとおりにそのようなところに意を用いていきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） しっかりと進めていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

4ページ、同じくですが、建設課長に伺います。河川排水路の整備、普通河川滝矢川の河川整備とありまして、今年度予算は1,100万円、昨年度は1,000万円でしたが、20メートル、かなり短い距離ではあるのですけれども、昨年改修率を伺いましたら約30%ぐらいだということをお伺いしました。私も現場を見に行っただけですけれども、川の水を通しながらの工事だと思うのですけれども、なかなか難しい工事なのかなとは思っております。今神社の脇のところを工事されていますけれども、平成31年度の工事は道路側のあのカーブのあたりのところを改修する工事なのか、この1,100万円は。いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 建設課長。

○建設課長（伊与部善久君） 今議員おっしゃるとおり、平成20年から現在の滝矢川の工事を進めて

平成27年度まで某電気の工場ありますけれども、その橋の部分まで改修を進めてまいりまして、その付近で用地の協力ちょっといただけない部分がございます、地域とご相談をさせていただきまして、一番ネックとなっております今議員おっしゃられた上流側のカーブのところということで、昨年最上流部のそのカーブのところをやって、その下流部について平成31年度にやる予定としております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） あそこのところ水が出ますと逆流してくるというのでしょうか、非常に水が流れ込むということで非常に困っておられるところがございますので、20メートルといわずもっと本当はやればいいのでしょうかけれども、難しい工事なのだろうなとは思っております。ただ、徐々に本当に進めていかないと本当に大雨が降ると大変なところですので、その辺はしっかりと進めていただければなと思います。よろしくお願いします。

次に、副市長に伺います。6ページに食のブランド推進事業というものがございます。こちらのほう国の地方創生推進交付金を活用して実施してまいりますというふうにありますけれども、この辺大学との連携みたいなものも考えられているのかどうか、いかがでしょうか、副市長。

○議長（三田敏秋君） 副市長。

○副市長（忠 聡君） この創生事業の活用につきましては、大学との連携までは想定はしておりません。あくまでも消費地の業者さんに向けてあるいは消費者に向けての情報発信あるいはマッチングというふうなことが主になっております。ただし、大学との連携で申し上げますと、胎内市に開校されました新潟食料農業大学からのいろんなご相談は受けておりまして、職員もことしに入りましてから学校見学に向かうなど今その連携のあり方を協議しているというそんな状況はございます。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 市長、やっぱりトップセールスでいろいろそういう学校との連携というのは、食料大学だけに限らずいろんなところがございますので、こういった食の部分はやはり村上の強い部分だと思います。ぜひ進めていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） まさに学生がそういう形で村上市の食に触れることによってそれが多分拡散をしていくのだらうと思います、時間はそれこそ卒業するまでかかるわけでありましてけれども。そういう意味では、非常に有効な手法なのだろうなというふうに思っておりますので、これに限らず積極的な大学機関等の教育機関との連携については進めていきたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 次に、5ページ、村上市高速のりあいタクシーが新たに新潟市民病院を乗降

場所に追加したということですが、新潟市民病院を加えたというのはどういう経緯からか教えてください。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（大滝 寿君） 私ども運行に当たりまして、利用者の方から例年8月にアンケート調査を行います。そのアンケート調査の中で市民病院の利用についてもできるように図ってほしいというようなご意見がございまして、現在県庁脇の中央病院のところまで最終地だったわけですが、そこから足を伸ばして、わずか数キロになりますので、来年度春からそこを対応できるようにしたということでございます。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 市民病院の要望を私もいっぱい聞いていましたので、本当にいい制度設計の改正だと思います。これのりあいタクシー病院のどの辺におられるようにしてあるのでしょうか、いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（大滝 寿君） 市民病院前のロータリーがございまして、一般車両とバスの車両との分かれたロータリーになっております。せんだって新潟交通さんにもお願いしに行きまして、バスのロータリーのところに阿賀野市さんとかもつけておるのですが、そこはほぼ同位置のところをお願いしております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） ほかの病院もその玄関の近くというのですか、そういった形でおられるのですよね、いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 自治振興課長。

○自治振興課長（大滝 寿君） はい、そのような対応をしております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 非常にそういった面では、マイカーで行くよりはすぐ玄関のところ、やっぱり病気で行くわけですから、そんな長く歩いたりすれば結構大変なわけなので、そういったこともっとのりあいタクシーの部分というものはPRしていただいて、すぐ近くでおられるのだよと。そうすれば利用数もかなりふえるのではないかと考えております。その辺のPRもぜひよろしくお願いいたします。

続きまして9ページ、では教育長よろしく申し上げます。一番下のところに英語検定料の補助がございまして、この辺の制度設計は、どんなふうにしてこの施政方針に盛り込んだのでしょうか、いかがでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（木村正夫君） 平成30年度は、今回受験者に対して受験指導をちょっとその受験率

が低い学校を中心にモデル的に行ってきました。その結果、まだ速報値なのですが、平成30年度は前年度より二、三%上がるのではないかというふうに思っております。ただ、まだ学校についてばらつきがございますので、それについてどうも今私どもは英語の担任とクラスの担任とのその連携がうまくいっていないのではないかというようなことで、その辺もう一度しっかりとして英語の検定に受験を進めるようなそんな体制を平成31年度はしたいというふうに考えております。また、受験生に対しては、外国語指導助手を活用しまして受験指導を行ってまいりたいというふうに考えております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 昨年度が140万円、予算ですけれども、予算ベースで。今年度は130万円。これは、何級から補助するというのはどんなふうになっているのですか。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（木村正夫君） 制度については、今までどおり4級から補助ということで、予算額については実績を見ながら予算を計上させていただいております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 教育長に伺います。

平成で行けば33年ですか、32年でしたか、かなり高い目標を上げていましたよね、受験率。そんな形で大丈夫ですか。いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 教育長。

○教育長（遠藤友春君） 中2、中3で教育基本計画では70%という目標値を上げていたのですが、1年生も認めておりますので、それも含めると2、3年だけで70%になるかちょっとわかりませんが、それに迫る数にできるように制度設計していきたいと思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） これについては、また別な機会にやりたいと思います。よろしくお願ひします。

10ページ、先ほどもちょっと出ましたけれども、中学校の部活動指導、これ3人配置で予算額ですと108万7,000円ぐらいなのですが、108万円で3人配置して中学校をどんな形にするのかちょっと私は見えてこなかったもので、どのように、どんな人というような想定はされていますか。

○議長（三田敏秋君） 学校教育課長。

○学校教育課長（木村正夫君） これは、国の補助と県の補助をもらって3分の1ずつでやる、今のところ考えております。国の考え方は、1人210時間ということで国は見ております。その考え方の根拠は、週3日、それと1日2時間という考え方で〔質問時間10分前の予告ブザーあり〕考えています。

以上です。

- 議長（三田敏秋君） 小杉和也君。
- 12番（小杉和也君） どういう人という想定あるのですか、持っているのですか。
- 議長（三田敏秋君） 学校教育課長。
- 学校教育課長（木村正夫君） 国は、教員及びまたはそういったクラブ活動の指導経験者ということでの規定がございます。
- 議長（三田敏秋君） 小杉和也君。
- 12番（小杉和也君） 新しい制度ですし、この辺が有効に働いて先生方が本当に子どもたちの教育の部分、部活動も教育なのですけれども、授業の部分とかそういったことにももう少し力を注げるような形、あとそういったことで取り組んでいただければいいかなと思います。
- それと、主要事業の説明書の22ページにICTを活用した教育環境整備というものがありまして、1億1,566万8,000円。これの説明が新学習指導要領に沿った学習活動を行うための整備を段階的に実施ということがございましたけれども、この辺のところのICTの整備。タブレットとかあと古くなったパソコンの回収というものもあるのですけれども、新学習要領に沿った学習活動を行うためというような記載があるのですが、これについてはいかがですか。
- 議長（三田敏秋君） 教育長。
- 教育長（遠藤友春君） 特に小学校において、プログラミング教育というものが盛り込まれておりますので、そのようなことに活用してもらいたいと思いますし、中学校においても当然以前からありましたので、一層活用能力を高めなければいけないものと思えばタブレットの導入、それからアクセスポイントのリース等に活用したいと考えております。
- 議長（三田敏秋君） 小杉和也君。
- 12番（小杉和也君） 学校のタブレット1回見せていただいたことあるのですけれども、こんなでかくて重くて何か運びづらいようなタブレットでしたので、もう少し何か機能的に。いや、そういうものではないとだめなのかしれませんが、何かもう少しうまく使えるように整備のほうもぜひよろしくお願ひしたい。いかがですか。
- 議長（三田敏秋君） 教育長。
- 教育長（遠藤友春君） パソコン室、コンピューター室に基本的に設置しますので、それを教室に時に必要に応じて持ち込んでいる。そのような活用も考えておりますので、コンパクトなものにしなければいけないと思っているところでございます。
- 議長（三田敏秋君） 小杉和也君。
- 12番（小杉和也君） 続きまして、4ページに新潟県の名水サミットin村上を新潟県と共催で実施するというのがありますけれども、ちょっとこのイメージが余り湧かないのですが、いかがですか。
- 議長（三田敏秋君） 環境課長。

○環境課長（中村豊昭君） 名水サミットにつきましては、新潟県がまず主催で開催する。平成30年度におきましては、十日町で実施されました。県のほうで名水の指定をされておりますそのPRとあとことしは新たに名水に指定されました村上市ですと桃川のお滝様というものがございまして、そちらの受賞式というふうなこともあわせて行いました。その中PR等の品物の展示とかそういったことを開催するというような、ことし十日町ではそんなような形で行われましたけれども、同じような形でなければならないというふうなことではないと聞いておりますので、実際どのような中身でやるかにつきましては、この後県といろいろ協議させていただきながら決まっていくということになっております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 村上は、名水がいっぱいありますので、ぜひ。こういうふうに県の共催でありますので、思い切り村上市をPRして水もいいのだよということを市長PRしていただきたいと思いますが、いかがですか。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） これまでも名水、どこだったか、済みません、刷新していただいて、それを公表していただいているところに載せてもいただいております。そういった村上の持つ水、実は村上の水というやつを、これは水道水の水なのですけれども、地下水をPRをさせていただいておりますし、あとはそういった形で、それが本当はストレートに利用いただければいいのですけれども、なかなかあれをそのまま飲めないという状況もあるものですから、今後そういった形でどういうブレゼンをしていくのかということも議論させていただいておりますので、しっかりと宣伝には努めてまいりたいというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 7ページ、ディステーションキャンペーン〔質問時間5分前の予告ブザーあり〕に合わせて10月から新しい観光列車「海里」が走ることとなります。ホームページでも私見しましたがけれども、本当にコンセプトが斬新というのでしょうか、1両目が普通の形ですけれども、2両目はボックスの感じで、3両目がビューフェミたいな感じ、4両目がそれをそういうので食べられるような作り込みになっていましたけれども、村上市はどんなふうここにPRしてかわっていくのですか。

○議長（三田敏秋君） 観光課長。

○観光課長（竹内和広君） 停車駅としては、桑川駅にちょっと停車時間が長くなるというようなことで今お話をお伺いしておりますので、詳細な時間等はまだ聞いておらないのですけれども、その桑川駅を中心といたしました情報発信になるかなというふうに現在のところは考えております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 村上駅も当然とまるのですよね。

○議長（三田敏秋君） 観光課長。

○観光課長（竹内和広君） とまると思います。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 続きまして8ページ、今後も引き続き訪日外国人の誘客活動につながる取り組みをとることがございます。いろんな市でターゲットがそれぞれ違っております。この辺のところは、村上市はどういった国というのでしょうか、どういった方向の国で具体的な誘客活動というものはどういうことでしょうか。

○議長（三田敏秋君） 観光課長。

○観光課長（竹内和広君） 本年度平成30年度まで台湾のほうに実は出向いてやっておりました。それは、ある程度の一定のルートはできてまいりました。そのほかヨーロッパ関係、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語を中心とした情報発信に努めてきたわけですが、引き続き欧米圏を今後ターゲットにしていきたいなというふうに現在のところは考えております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） やっぱり欧米圏というのは、割にそういうゆっくり楽しむというのでしょうか、何か村上に合っているような気がしますので、そういったところをやはり強化していただきたいなと思っております。

同じく8ページに来訪者の満足度向上と地元活性化が図られるよう計画的に整備を進めるというふうにあります。こういう記載はされたのはどういうことでしょうか、課長。

○議長（三田敏秋君） 観光課長。

○観光課長（竹内和広君） 大変財政状況の中でふんだんにおもてなしの施設をつくるということは、なかなか困難なことというものは共通のご理解いただけると思うのですが、やはりこの地の特徴といたしまして、やはり来てほっとするようなことを考えていかなければならないということで、今回の施政方針のほうで来て喜んでもらえればお金を落としてもらえる、それが地元の活性化につながるかなということで、計画的にということ、見ように合った形での予算化はされておませんが、気のつくところから配慮のある整備を進めていきたいなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 常々市長も村上市は、こういう観光の部分ではポテンシャルがあるのだというふうに言われていますけれども、私もいろいろと来られた方は結構喜んでいかれる場合が多いのかなと思っております。その辺のところ、村上市の観光の今後、みずからリーダーシップをとっていただきたいのですが、その辺の思いをひとつ聞かせてください。

○議長（三田敏秋君） 市長。

○市長（高橋邦芳君） 村上市合併してから10年を経過し、11年目という形になっているわけでありましてけれども、その中でずっと以前から取り組みを進めてきたと思います。今人形さまは、今回第

20回の記念の大会になるわけでありましてけれども、そういったやっぱり時間を重ねてきてようやく形になっていくという、やっぱり歴史時間がかかるものだなというふうに思っております。先日川越へ行ったときも川越の市長さんが半世紀かかってここまでだというお話をされておりました。ですから、今訪日外国人客が3,000万人を超えて、ことしも含めて来年の東京オリパラまでに4,000万人を超えるという、これターゲットは多分達成できるのだろうと思いますけれども、今本当にそれがストレートに来てくれるというような受け入れができればこんなにはいいことはないのですけれども、やはり我々がこれまで積み重ねてきた歴史というものがあるわけでありまして、それを踏まえた上でこれからしっかりと持続をさせながら、その先に光り輝く村上市のまちづくりがあるということを確信を持ちながら進めていくということが大切なのかなというふうに思っております。

○議長（三田敏秋君） 小杉和也君。

○12番（小杉和也君） 本当に人口は減少する中で、交流人口というものは大切なキーワードになると思います。ぜひとも村上の魅力を発信しているいろんな方に来ていただければと思います。

以上で終わります。（拍手）

○議長（三田敏秋君） これで市政クラブの代表質問を終わります。

以上で代表質問を終了いたします。

ただいま代表質問の対象となりました議第4号から議第14号までの11議案については、平成31年度一般会計予算付託表、平成31年度特別会計予算付託表のとおり、会議規則の規定によって一般会計予算・決算審査特別委員会並びに各所管常任委員会に付託をいたします。

○議長（三田敏秋君） 以上で本日の日程は全て終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

なお、22日から本会議を開き一般質問を行いますので、定刻までにご参集ください。

長時間大変ご苦労さまでございました。

午後 3時50分 散会